

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人 緑友会

令和5年6月15日 評議員会承認版

目 次

はじめに	3
法人本部	3-14
役員会（理事会・評議員会）	3-4
特記事項 要件	4-7
職員人事 入退職	7
職員配置状況	8
職員研修（1 外部研修）	9-11
職員研修（2 対外研修）	11
職員研修（3 特養内部研修）	11
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	12
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	12-14
防災訓練	14
小川ホーム	15-26
1. 入所者の状況	15-17
2. 処遇の状況	18-22
3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉	22
4. 各係	22-24
5. 栄養・給食関係	22-26
短期入所生活介護	26
小川ホームデイサービスセンター	27-29
1. 月別実績	28
2. 要介護度・年齢別利用者数	28
3. 移動方法別利用者数	29
4. 地域別利用者数	29
5. 行事	29
小川ホームホームヘルプサービス	30-31
小川ホーム介護計画センター	32-34
地域包括支援センター小川ホーム	35-48
1. 月別実績	46
2. 要介護度分類	46
3. 相談実績	46-47

はじめに

令和2年1月16日初めて国内初の新型コロナウイルス陽性者が報告されてから、既に3年半が経とうとしています。こうした中、当法人はワクチン接種の励行・抗体検査を經常して行う等感染防止対策を行ってまいりました。

残念ながらコロナ感染第六波の令和4年7月にデイサービスで感染拡大し一時サービスを休止しました。第七波の7月から8月にはホーム3階で感染拡大し、医療機関が逼迫し入院治療ができず入所のまま療養され事態になってしまいました。

第八波の令和5年1月には特別養護老人ホーム全フロアに感染拡大し、多くの利用者さんが東京都の専門療養施設に入院されることとなりました。

これらのことでサービスとベッドの空きが多くなり、介護保険報酬が減少しました。一方感染予防しながらの介護に係る人員、残業、衛生材料などの費用が増大しました。また、社会情勢悪化に伴い物価高騰のあおりを受け、2倍近いライフラインの経費が重くのしかかっています。令和4年度は、コロナ禍と多くの歳出により、今までにない収支バランスの悪化となりました。

このような窮屈な環境の中、当法人の感染対策に対しご理解ご協力を頂きながらご利用いただいた利用者さん、ご親族の皆さん、関係者及びボランティアの方々に対し、心より感謝申し上げます。また、利用者さんに寄り添う気持ちを維持し続け、利用者サポートに全力を傾けた職員にも感謝し、敬意を表するとともに、緑友会の誇りと感じております。

法人本部

○役員会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題（概要）	
107	令和4年 5月30日（月） 15時00分～	理事 出席6名 (1名Web) 監事 出席1名 欠席1名	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 第8号議案 第9号議案	補助金及び高額な出納について（承認案） 令和3年度 事業報告書（案） 令和3年度 計算書類（貸借対照表、収支計算書及び付属明細書）及び財産目録（案） 令和3年度 決算における積立金、積立資産引当金に関する案 令和3年度 社会福祉充実残額の確認案 令和3年度 事業に関する監事監査報告、及び純資産証明額・資産登記の確認案 評議員・役員の報酬等及び費用弁償に関する規程 改定案 第20回 定時評議員会開催案 福祉サービス等の苦情解決に関する第三者委員 選任案
19	令和4年 6月16日（木） 15時00分～	評議員 出席5名 欠席2名 理事 出席2名 監事 出席1名 欠席1名	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案 第8号議案	評議員会 議長選出 評議員会 議事録署名人の選出 令和3年度 事業報告書（承認案） 令和3年度 計算書類（貸借対照表、収支計算書及び付属明細書）及び財産目録（承認案） 令和3年度 決算における積立金、積立資産引当金に関する案（承認案） 令和3年度 社会福祉充実残額の確認（承認案） 令和3年度 事業に関する監事監査報告及び純資産証明額・資産登記の確認案 評議員・役員の報酬等及び費用弁償に関する規程 改定案

108	令和5年 1月31日(火) 15時00分～	理事 出席6名 監事 出席2名	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案	積立金取崩、補助金交付および高額な出納について(承認案) 規程の新設、更新について(遡及) ・介護職員宿舎借り上げ規程(決議案) ・新型コロナウイルス等の感染症蔓延防止のための休業について(承認案) 令和4年度 第1回補正予算(案) 令和5年度 業務委託 指名競争入札実施案
109	令和5年 3月29日(水) 15時00分～	理事 出席6名 監事 出席2名	第1号議案 第2号議案 第3号議案 第4号議案 第5号議案 第6号議案 第7号議案	補助金交付および特別な出納・寄附について(承認案) 令和5年度 事業計画(案) 令和5年度 収支予算(案) 令和5年度 給食サービス提供業務入札結果報告・契約に関する案 令和5年度 外部委託業務の見積比較報告・契約に関する案 役員等の賠償責任保険の加入に関する案 留学生奨学金申請に関する保証人について

○評議員選任・解任委員

任期：令和3年6月18日から令和7年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時		
委員：西澤三子外部委員 基太村壽三郎監事	職員個人名はホームページでは公開していません。	係長

○評議員

令和4年6月16日に評議員会を開催し、下記の評議員7名各氏により令和3年度の決算に関する議案の決議をして頂いている。

任期：令和3年6月18日から令和7年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時
評議員：赤木 真 出竿章雄 栗田正夫 澤田尚敏 田中信明 土川洋子 檜山則明

○理事・監事

任期：令和3年6月18日から令和5年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時	
理事長	増田英男
業務執行理事	小林美穂
理 事	荒武宗昭 市東和子 関谷栄子 高木好男
監 事	基太村壽三郎 森杉美保

○新型コロナウイルス等の感染対策

令和4年新型コロナウイルス感染に対する東京都の対策は、緊急事態宣言の再発令はなかったが、感染症法上の2類相当分類のまま、ワクチン接種と基本的感染予防を提唱していた。令和5年5月8日からはインフルエンザと同じ5類に分類される予定である。

小川ホームでは年間を通し感染症対策委員会を定期開催し、決議された対策を実施している。厚労省はマスク着用義務を令和5年3月13日から個人判断としたが、巷では感染者が増減していることから、小川ホーム勤務中はマスクの着用をし、換気、密の防止、消毒、入館の記録と制限を続けた。

PCR検査と抗原検査は行政の補助金を用い、蔓延期間中の勤務前の抗原検査・有所見者に民間PCR検査・東京都が支給する定期PCR検査を利用者様と職員に対し順次実施した。

特に館内で発生している期間は、フロアと出退勤務中の動線を分離し、職員相互で業務加勢を行い、会議の多くはWebを活用した。可能な限りのコロナ予防対策を尽くしていたが、以下の記載のように感染の発生と拡大があった。

デイサービス	7月13日発生 7月18日～7月26日拡大防止に向け休業
特別養護老人ホーム 3階	7月21日～8月29日保健所制限解除の間 利用者様14名・職員9名
特別養護老人ホーム 2階3階	令和5年1月6日～2月7日解除までの間 利用者様24名、職員10名

表記のほかにも職員の単独や家族罹患による自宅療養や、濃厚接触での出勤停止で複数の職員が勤務できないことで、スタッフ不足が発生した。これを職員の残務や臨時派遣スタッフの起用、やむを得ない在宅勤務などで補い、手当支給や費用負担で対応している。

○労働の安全衛生と職員処遇

- ・新型コロナ感染対策は、安全労働の観点からも予防的衛生活動を検討し行っている。アルコールでの物品消毒、高純度アルコール手指消毒をはじめ、ほぼ一年中マスクに加えフルフェイスシールドを着用し、感染者の発生時にはグローブ、ガウン、キャップも使い捨て使用している。
- ・コロナ発生時にはスマートフォンソフト LINE を活用し、情報の一括送信を行えるよう、フリーWi-Fiを新設して密な相互連絡を図っている。
- ・感染と濃厚接触で勤務できない職員に対し、これまで入院療養に向けて積み立てた有給休暇未取得分を療養休暇規定の緩和を行い、コロナ関連で行使できるように柔軟に対応している。
- ・職員処遇改善は、介護職員には継続して通年で処遇改善の介護保険加算と補助を受け、それを手当等で賃金に反映している。また、感染者の対応に当たった小川ホーム職員には、特別手当を支給している。
- ・健康診断・腰痛検診について実施しているほか、希望する対象職員には、女性検診、節目検診が受診できるよう、協会けんぽ制度も活用し指定クリニックでの受診と疾患の早期発見を勧めている。また、コロナオミクロン対応ワクチンやインフルエンザワクチンの接種は、法人負担を行い、小川ホーム会場での接種と経費支給している。法定ストレスチェックについては予定時期にコロナ蔓延したため延期し、令和5年5月に実施することとしている。
- ・介護職員宿舍借り上げを規程化し、緊急時駆けつけ介護ができる職員を対象に、法人が4年間宿舍契約と賃料支払いを行い、のちに定額について東京都の補助金で補完される仕組みを導入した。令和4年度中は3名の介護職員が利用しており、次年度には少なくとも更に4名の希望者がある見込みである。4年間ではあるが利用職員は家賃負担を大幅に免責されるため、報酬増額同等の効果となり、安定生活による長期就労を法人として期待している。

○介護職員の業務負担の軽減策

令和4年9月に契約完了し、手書きと複写による職員負担を軽減する目的で、(株)ワイズマンの介護記録サービスを導入している。これに伴いタブレット携帯端末 iPad8 台・勤務室 PC4 台・無線 LAN を整備している。度重なるコロナ感染にさいなまれ、打ち合わせと初期設定の遅れが発生しているが、完全移行に向けて努力を続けている。

また、タイムカードと勤怠管理集計のデジタル化に向け、Xronos のクラウドシステムを導入し、休暇の管理まで活用し始めている。

○介護人材不足と外国人留学生、派遣職員の利用

介護人材不足は依然解消せず、コロナ禍の就職難の中でも入職応募者は僅少であった。

令和4年4月入職予定だったミャンマー人留学生は社会情勢の都合で出国が遅延し、5月に来日のうえ、日本語学校1年、介護福祉学校2年就学の後、常勤就労の見込みとなっており、学費等の貸付や生活の便宜提供を理事会決議を頂き進めている。

令和5年入職に向け更にミャンマー人留学希望者複数名と10月5日Webで面接を行い、うち1名の採用を決めており、令和5年4月に来日し介護福祉学校2年就学の後、常勤就労の見込みとなっている。

今や職員の確保と維持が法人の重要な課題であり、ハローワーク等の広告や手作り看板で募

集を行うと同時に、施設雰囲気を伝えられるよう Facebook (Meta Platforms, Inc.) も活用し始め、情報発信を心掛けている。

また、特に特別養護老人ホームで、介護、看護の人材が不足してやむを得ないときは、複数社と契約しスタッフ派遣サービスを受けている。

○Web研修、会議

ウィズコロナ時代に入り、前年度に引き続き会議・研修・事業説明・面談が、Web ミーティングで実施されているため、ノート PC を増やすなどしているが、館内で個別化できる適した場所が少なく、今後の動向を見て簡易ブース設置などの必要性を検討している。

○面会・面談

令和4年4月3日に家族懇談会をWeb会議にて開き、事業計画の説明を行っている。

昨年に続き感染予防対策で入館制限をせざるを得ない中、窓越し面会を断続的に行っている。窓の内外で声が通りにくいことから、相互インターホンを導入し、以前よりは対話がし易くなっているが、高齢ご家族が外階段の昇降のご負担が課題となっている。今後は2階・3階のエレベータ前を簡易衝立で仕切り、フロアを見渡せる状態で面会者が入館できるよう、段階的に制限を緩和していく予定としている。

○利用者の生活環境整備

不足していた床頭ワードローブを21台導入し、入所者全員分を整備している。また、経年劣化していた介護ベッド9台の更新を行っている。居室と共用部分のベースライトを更新し、約半数をLED照明化している。2階3階の食堂に省エネ独立型エアコンを更新し、細かい室温調整を行えるように整備している。

○補助金・高額な寄附金

計算書類のP16 補助金事業等収益明細書に詳記のとおり、衛生用品、検査キット、燃料光熱水、物価高騰、省エネ機器、介護職員処遇、経営支援等の細目で東京都と小平市から、複数補助を合計約1,600万円受けている。コロナ感染で施設内療養かかり増し経費約800万円の補助を申請中であるが、厚労省で未決定審査待ちとされており計算書類には計上できていない。

永年入所されていた利用者様が令和4年度中に永眠され、入所の際に示された公正証書遺言の寄附のご遺志に基づき、理事会で決議の上、総額31,054,889円を受贈している。

○IT化

資金不足の中ではあるが、現行のPCが世代遅れとなったため、全体で10台の更新を行っている。現在利用中の㈱ワイズマンの介護保険ソフトが、セキュリティ向上の理由でWindows11搭載PCを必要としており、令和5年度には旧世代PCを全て更新する課題が残されている。

○地域連携・ボランティア・実習生委員

おがワンフェスティバルはコロナ禍で令和4年度も開催を断念している。地域に根差す施設として、困難を抱える地域の子どもとご家庭等に向け、食を維持するおがワン広場「誰でも食堂」として、毎月第4日曜日の開催を9月25日にリハーサルを行った上で始めている。感染対策を考慮し、現状はピロティーでの開催に止まるが、多くの地域ボランティアと事業所のご協力を頂きながら開催し、子ども無料で毎回50食は瞬間に配布を終えている。物品や匿名者から金券の寄付も頂けるようになり、Facebookで広告し、活発化してきている。今後は1階食堂での開催や、居場所づくりについても検討と準備を進める予定としている。

介護施設実習生の受け入れは、コロナ流行期には実施できなかったが、PCRと抗原検査を実施したうえで部分的に受け入れを再開している。

○福祉サービスの第三者評価の受審

緊急要務を除いて外部者入館を制限していたため、令和5年2月にWeb会議を併用しながら、内容を煮詰めて施設調査・アンケート・ヒヤリングを実施した。契約した一般財団法人 日本薬事法務学会の調査結果は、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表され、この調査に係る経費は東京都経営支援補助金で賄われている。

○協力医療機関と嘱託医師

令和4年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪診療等を実施した。なお、後藤雄一医師は遠方転居により勇退され、年度末を以てあきやま子どもクリニックとの協力医療機関契約更新は行っていない。担当されていた利用者様は、小川哲史医師に引継ぎをお願いしている。

南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	
小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 下山克也医師

○法人職員人事（異動・昇格）

昇格 令和4年4月1日
 昇格 令和4年4月1日
 昇格 令和4年4月1日
 異動 令和4年4月1日

 昇格 令和4年4月1日

職員個人名はホームページでは公開しておりません。

生活係副主任
 介護計画センター管理者
 介護計画センター主任
 介護計画センター介護支援専門員
 生活健康課健康係主任
 庶務課係長 免 庶務課主任

○職員入退職（常勤職員）

職種	配置	入職者	日付	職種	配置	退職者	日付
看護職員	特養	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R4.4.1	看護職員	特養	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R4.7.27
介護職員	特養		R4.4.1	ケアマネジャー	包括		R4.12.31
介護職員	特養		R4.4.1○	介護職員	特養		R5.1.31
介護職員	特養		R4.7.11	サ責	訪問		R5.3.31
サ責	訪問		R4.11.2	介護職員	特養		R5.3.31
ケアマネジャー	包括		R4.12.1	-	-		-

○職員入退職（非常勤職員）

職種	配置	入職者	日付	職種	配置	退職者	日付	
ケアマネジャー	計画	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R4.4.1	ケアマネジャー	計画	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R4.4.30	
介護補助	特養		R4.5.30	介護職員	特養		R4.6.30	
介護職員	特養		R4.6.13	介護職員	特養		R4.7.28	
機能訓練	通所		R4.9.28	介護職員	通所		R4.7.31	
サ責	訪問		R4.10.4	事務員	特養		R4.8.31	
介護職員	通所		R4.10.12	ライフワーカー	特養		R4.9.12	
看護職員	特養		R4.11.2	介護職員	通所		R4.12.28	
介護職員	通所		R4.12.19	機能訓練	通所		R4.10.31	
看護職員	特養		R5.1.6	看護職員	特養		R4.12.7	
生活サポ	訪問		R5.2.9	ライフワーカー	特養		R4.12.31	
-	-		-	-	看護職員		特養	R5.1.19
-	-		-	-	介護職員		特養	R5.1.20
-	-		-	-	生活サポ		訪問	R5.2.25
-	-		-	-	ヘルパー		訪問	R5.3.24
-	-	-	-	警務員	特養	R5.3.28		
-	-	-	-	ケアマネジャー	包括	R5.3.28		
-	-	-	-	医師	特養	R5.3.31		

※ ○＝非常勤から常勤となった職員 ◇＝常勤から非常勤となった職員 △＝契約部署変更
 サ責＝サービス提供責任者 生活サポ＝小平市生活サポーター

○職員配置状況

令和5年3月31日現在

職 種	形態	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)				通所介護			訪問介護						
		基準	定員	内兼務		基準	定員	内兼務	基準	定員	内兼務				
施設長	常勤	1	1	1	1	ケアマネ									
事務員	常勤		2	2		全区分									
	非常勤		2	2		全区分									
看護職員	常勤	3	2	1		訓練	1								
	非常勤		2				1	4	4	4	訓練				
相談員	常勤	1	1	1		1	ケアマネ	1	3	2	2	介護			
	非常勤							1	1	1	1	介護			
介護職員	常勤	24	22	4		4	ケアマネ	4	3	2	2	相談			
	非常勤		15					1	13	1	1	相談			
サービス提供責任者	常勤										3	2	2	ヘルパー	
	非常勤											2	2	ヘルパー	
ヘルパー	常勤										5	2	2	サ責	
	非常勤											16	2	サ責	
生活サポーター	非常勤											4			
介護支援専門員	常勤	1	5	5		4	介護 1相談								
	非常勤														
管理栄養士	常勤	1	1												
医師	非常勤		必要数	2											
精神科医師	非常勤	1	1												
歯科医師(訪問)	非常勤	1	1												
機能訓練指導員	常勤	1	1	1			看護								
	非常勤		1					1	5	4	4	看護			
ライフワーカー	非常勤		8						1						
業務員	非常勤		5												
警務員	非常勤		6												
運転士	非常勤		1						3	1	1	LW			
計	常勤	32	35	15				6	6	4			8	4	4
	非常勤		45	2				4	27	11			0	22	4

職 種	形態	居宅介護支援			地域包括支援センター			
		基準	定員	内兼務	基準	定員	内兼務	
事務員	常勤		0	0		1	0	
看護職員	常勤				1	1		
	非常勤					1		
相談員	常勤				2	2		
	非常勤							
主任介護支援専門員	常勤	1	1		1	2		
介護支援専門員	常勤		3		4	4	1	施設長
	非常勤		2		3	3		
計	常勤	1	4	0	8	10	1	
	非常勤	0	2	0	3	4	0	

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

※計は単純に表を合計しているため、実人の計とは一致しない場合がある。

※サ責＝サービス提供責任者の略 LW＝ライフワーカーの略

○職員研修
(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日	その他
			(1日目)	(2日目以降)
源泉所得税実務研修会	東村山法人会	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R4. 4. 25	
新年度！「介護保険」ケアマネジャー・福祉用具関連何が変わる!!	(株)日本ケアサプライ営業企画部 (YouTube 配信)		R4. 4. 28	
鐵さん ZOOM 無料セミナー「求められる業務効率化×ICT 活用」	(株)ウェルモ (WEB 開催)		R4. 5. 11	
地域連携におけるポリファーマシーと副作用対策	(株)やさしい手 (WEB 開催)		R4. 5. 12	
今、ケアマネジャーが抑えておきたい事項	(株)やさしい手 (WEB 開催)		R4. 5. 19	
令和4年度東京都地域包括支援センター職員研修 (初任者)	東京都福祉保健財団		R4. 6. 16	R4. 6. 17
東京都介護支援専門員専門研修 I	東京都福祉保健財団 (WEB 開催)		R4. 6. 17	全8日間
安全対策体制加算対応「介護における安全対策担当養成研修」	全国老人福祉施設協議会 (e ラーニング)		R4. 7. 4～9. 30	
対人援助職に効く心の免疫力を高めるワークショップ～認知療法・アサーション・リラクエーションを身につけよう～	全国老人福祉施設協議会 (WEB 開催)		R4. 7. 19～8. 5	
骨髄小脳変性症・多系統萎縮症の疾患の理解	東京都多摩小平保健所 (WEB 開催)		R4. 7. 21	
令和4年市区町村介護予防推進事業担当者向け研修 実践編 1	東京都健康寿命医療センター研究所 (WEB 開催)		R4. 8. 4	全4日間
栄養ケアマネジメント研修会	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 開催)		R4. 9. 12～10. 7	
生活の場でのACPの進め方	小平市 (WEB 開催)		R4. 9. 16	
令和4年度小平市ケアプラン研修介護現場におけるハラスメント対応を学ぼう	小平市 (WEB 開催)		R4. 9. 22	
「共に生きる」認知症を考えるセミナー	SOMPO ホールディングス(株) (WEB 開催)		R4. 9. 23	
東京都介護支援専門員専門研修 II	東京都福祉保健財団 (WEB 開催)		R4. 9. 27	全4日間
東京都介護支援専門員専門研修 II	東京都福祉保健財団 (WEB 開催)		R4. 9. 30	全4日間
令和4年度栄養管理講習会「嚥下調整食学会分類 2021 の理解と実践」	多摩小平保健所 (WEB 開催)		R4. 9. 30	

令和4年度栄養管理講習会「コロナ渦での換気について」	多摩小平保健所 (WEB 開催)	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R4. 10. 13	
安全運転管理者等講習	東京都公安委員会 (WEB 開催)		R4. 10. 18	
小平市主任介護支援専門員研修「スーパービジョンを学ぶ」	小平市 (WEB 開催)		R4. 10. 20	
生活の中のアドバンス・ケア・プランニング	東京都福祉保健局 (WEB 開催)		R4. 10. 22	
国立精神・神経医療研究センター病院 第4回ブラッシュアップ研修 押さえておきたい認知症の基礎	国立精神・神経医療研究センター病院 (WEB 開催)		R4. 11. 2	
高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団		R4. 11. 16	
令和4年度東京都高齢者権利擁護推進事業 介護サービス事業管理者高齢者権利擁護研修「高齢者虐待防止研修」	東京都福祉保健財団		R4. 11. 16	
東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ	東京都福祉保健財団 (WEB 開催)		R4. 12. 6	全4日間
高齢者福祉施設におけるサービスマナー研修会	東京都社会福祉協議会 (WEB 開催)		R4. 12. 1～12. 31	
令和4年度介護サービス事業者支援研修「介護サービスにおける認知症の利用者のケアについて」	東京都国民健康保険団体連合会 (WEB 開催)		R4. 12. 15～R5. 2. 28	
コロナ渦における感染症管理～COVID-19 施設内発生！どう対応する？～	多摩北部医療センター (WEB 開催)		R4. 12. 16	
事例から見る精神科在宅医療・訪問看護との連携	㈱やさしい手 (WEB 開催)		R4. 12. 16	
多職種で学ぶ認知症の方への食支援	東京都社会福祉協議会 (WEB 開催)		R4. 12. 1	
小平市ケアプラン研修「公立昭和病院とケアマネジャーの連携を考える」	小平市 (WEB 開催)		R4. 12. 21	
小平市ケアプラン研修「居宅サービス計画書の様式変更について学ぶ」	小平市 (WEB 開催)		R5. 1. 11	
令和4年度 第3回ケアマネサロン～事例検討会っておもしろいね！～	小平市 (WEB 開催)		R5. 1. 17	
東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ	東京都福祉保健財団 (WEB 開催)		R5. 1. 25	全4日間
組織をより良くするための環境づくり研修	東京都福祉保健財団 (WEB 開催)		R5. 1. 30	
小平市キャラバンメイト養成研修	小平市福祉会館	R5. 2. 6		

令和4年度 第2回東京都チームオンラインコーディネーター研修	東京都福祉保健局	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	R5. 2. 8	
令和4年度 認知症化向上研修 事例をとおして認知症の方が地域で住み続けられるように必要なサポート体制を考える	小平市 (WEB 開催)		R5. 2. 13	
介護職員のためのオンライン情報交換会	東京都社会福祉協議会 (WEB 開催)		R5. 2. 16	
機能訓練計画書の作成から訓練の展開と評価	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 開催)		R5. 3. 14	
小平市主任介護支援専門員研修 第2回「スーパービジョンを学ぶ」	小平市 (WEB 開催)		R5. 3. 22	
誤嚥事故防止セミナー	全国老人福祉施設協議会 (WEB 開催)		R5. 3. 30～6. 30	

20230601

(2) 対外研修

研修内容	講師	受講者	研修日
感染症対策研修会 (新型コロナウイルス)	天野秀幸	小規模多機能やまびこ職員 約 15 名	R4. 6. 8
次世代への介護の魅力発信 (現地開催)	石原裕介	東大和市立第八小学校 児童 1 名 東村山市化成小学校 児童 2 名	R5. 3. 27

(3) 特養内部研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
喀痰吸引・経管栄養研修	職員個人名はホームページでは公開しておりません。	16 名	R4. 5. 1～3 日間
防護服 (PPE) 着脱研修		22 名	R4. 5. 2～12 日間
防護服 (PPE) 着脱研修 第 2 弾		15 名	R4. 6. 20～10 日間
利用者急変時の対応 (緊急対応)		13 名	R4. 6. 7
「死生観」のついて考える		48 名	R4. 6. 13～5 日間
食中毒・ノロウイルス		10 名	R4. 11. 20
誤嚥事故を防ぐには		48 名	R4. 11. 29～2 日間
褥瘡予防に関する研修		50 名	R5. 2. 16～5 日間
～「死」を意識したとき、私たちにできることは何か～その方らしい「最期」を支援する		14 名	R5. 3. 1～2 日間
感染予防研修～新型コロナウイルス感染症～		45 名	R5. 3. 8～4 日間
認知症の人の価値を高める行為と低める行為		48 名	R5. 3. 24～3 日間
ヒューマンエラーが起きにくい環境を作るには		45 名	R5. 3. 25～3 日間
介護における「不適切ケア」と予防法		47 名	R5. 3. 31～

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催している。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載している。

※研修未受講者に対するフォローアップ研修はOJTで個別に行っている。

年	令和4年				
月	5	8	10	10	令和5年1
日	4, 5, 10, 11, 12	23	5, 7, 13	20	24
研修テーマ	防護服の 着脱方法	記録について	防護服の 着脱方法	モチベーショ ンをマネジメ ントしてみよ う！やる気ス イッチ探し	介護保険制度 について
講師	職員個人名はホームページでは公開しておりません。				
職員個人名は ホームページ では公開して おりません。		○	○		○
	○	○	○	○	○
	○	○	○		○
	○	○	○	○	○
	○	○	○		○
	○	○	○		○
	○	○	○	○	○
	○	○	○		○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○		○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○		○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
	○	○	○	○	○
			講師	講師	○
		講師	講師	○	
					講師

令和4年度
研修委員会 総評報告

《総括》

令和4年度の課題として以下の2点が挙げられていた。①特養・在宅共に、新型コロナウイルス感染症だけでなくあらゆる感染症予防の対策をしながら、中重度の方の介護や介護だけでなく家族支援の困難な方の支援を行っている。職員の心身の負担を軽減し、やりがいを持って勤務できるようにストレスコーピングやモチベーションアップを図れるような学びが必要である。

②認知症への理解や対応する技術の不足がある。今年度は①の課題に対応したオンライン研修と

いう形で実施することができた。

また、今後も新型コロナと共存していく社会の中で感染対策に取り組んでいかなければならないことから、新型コロナウイルス感染症の学習（新型コロナウイルスの基礎知識・手指消毒や物品消毒の方法・ガウンテクニック・衛生用品の着脱方法等）を続けていく必要がある。

感染状況の動向をみながらにはなるが、各部署でのOJT・OFF-JTを基本としつつ、オンライン研修も取り入れながら、各部署での共通課題に対し取り組む事ができる様にして行きたい。

■テーマ①モチベーションをマネジメントしてみよう！～やる気のスイッチ探し～

令和4年10月20日（木）18：15-20：00

講師：（株）Professional Works 島田孝一氏

参加者：特養10人・在宅33人 計43人

【モチベーションの正体を知ろう！】

モチベーションの意味

→モチベーション（motivation）＝人が何かをする際の動機付けや目的意識

→広い意味では「やる気」「意欲」に対しても使われているが、本来の意味は「動機付け」だった。

→やる気＝（intention）意思・意図・意向

→意欲＝（desire）強く望む、欲求する。

動機付けの種類

- ① 外発的動機付け＝労働 お金や報酬など、自分の外側から行動する理由を与えられた動機付け（短期的）生活を豊かにするためにも、経験や能力でベースアップを図ることが人材確保の観点から重要である。
- ② 内発的動機付け＝仕事 好奇心・興味・関心によってもたらされるもの（長期的）
- ③ 達成動機付け＝活動 やりがいのあること

【自分にできること、仕事・活動を増やそう！】

仕事＝耐久力がある。成果物として残る

活動＝意味、価値を人対人で見出している。

具体的な目標を立て、〇〇しなければと自分を追い込みすぎない。

動機付けとは、基本的知識や経験を基にした学びと自ら考えて導き出した答えから成り立つものであることが理解できた。また、人材育成の観点からも、職員一人一人の特性を見極め、良いところを伸ばし苦手なことをお互いにフォローし合い、そして自分の学びを研いて他の職員に引き継いでいくことの重要性を学ぶことができた。

■テーマ②新型コロナウイルス感染症対策と標準予防策

令和4年10月20日（木）15：00-16：30

講師：南台病院 感染管理認定看護師 中塩由紀氏

参加者：15人

【感染対策の基本的な考え】

感染対策の目的は1 入所者を感染させない 2 自分が感染しない 3 入所者間で感染しないの3つが重要である。

【施設内で感染拡大させないための三原則】

- 1 広げない（マスク表面に触らない、必要な防護服の使用、休憩は距離と換気）
- 2 持ち込まない（体調管理の徹底、1ケア1手指衛生）

3 持ち出さない（適切な排泄物の処理、防護服の着脱を慎重に行う）

【標準予防策（スタンダードプリコーション）】

全ての患者と患者周囲の環境に対して標準的に用いる、最も重要で基本的な感染対策。みえていない感染症は氷山の一角であり、みえていない部分（未検査 潜伏期 未知の感染症）への対策としても標準予防策が必要である。

- ・手指衛生
- ・手袋、ガウン、エプロンの正しい脱着
- ・N95 マスクの正しい脱着

【新型コロナウイルスの感染経路】

飛沫感染-感染者の咳やくしゃみ、会話により半径 1, 2M 以内に飛沫が飛びそれを吸い込むなどして目鼻口に付着して起きる感染。

接触感染-感染者の手についているウイルスがモノに付着して、それらに触れることで起きる感染。

【具体的な感染予防対策】

何事も初期対応が重要であり、いつもと違う、なにかおかしいと感じたら、速やかに正確に上司に報告する。危機管理について情報共有し、保健所や行政機関に連絡する。

感染が起きた施設ごとで業務の優先ポイントと変更できるポイントは異なる。食事、排泄、入浴・清拭どこに重きを置くのか、ゾーニングも含め普段から検討しておく必要がある。

いつ、どこで、だれが感染してしまうのかはわからないが、感染が発生してもアウトブレイクを防ぎ、被害を最小にとどめること、最悪を想定して早期から備えることの大切さを学ぶことができた。

(6) 防災訓練 感染拡大防止のため密、接触を避けて実施

実施日	訓練内容	参加者
令和4年10月19日 11:00~16:00	停電想定訓練(震災・台風災害) 災害時の優先機器材への給電訓練	施設職員 5名
令和4年10月20日 12:00~16:00	災害停電時の発電機使用給電 飲料補給 補助照明 停電時の過ごし方の訓練	施設職員 10名
令和4年12月16日 14:30~15:00 コロナ警戒中につき非接触感染予防優先しながら簡略実施	夜間想定総合訓練 ①小川ホーム 夜勤時間帯地震発生・出火想定 初期行動・通報・放送・消火設備取扱・減災・ 危険回避のための災害講習・避難誘導 PowerPoint を用いて講習 ②デイサービス 日中地震想定 初動訓練と利用者を介助しながら避難誘導 と点呼	施設職員 約20名 利用者 15名
令和5年2月16日 12:00~14:00	BCP 断水発生時訓練 コロナ対応にて時期繰り下げ	施設職員 10名
令和5年3月30日 14:30~15:00 コロナ警戒中につき非接触感染予防優先しながら簡略実施	夜間想定総合訓練 ①小川ホーム 夜勤時間帯地震発生・出火想定 シェイクアウト・通報・放送・防災設備取扱・ 避難誘導・担架救護救出方法・煙の特性を 考慮した避難・放水・滑り台体験・ポンプ 説明 ②デイサービス 日中地震想定 シェイクアウト・初動訓練と利用者を介助 しながら避難誘導と点呼	施設職員 約25名 利用者 約15名

指定介護老人福祉施設 小川ホーム 事業報告

運営概況

令和4年度は、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防や対応について重点を置きながらの運営となった。施設内への持ち込みを予防することが最大の感染予防策となることから、職員の健康観察の他、感染症に対する意識・行動制限の共有化、出勤前の抗原検査や毎週PCR検査を実施、ワクチン接種を進めるなど、国や自治体の対策も確認しながら感染対策を実施してきた。しかしコロナの波は大きく、当施設も7月と1月の2度に渡りクラスターが発生。利用者の生活に大きな影響を与え、様々な活動も停止せざるを得ない状況となり、厳しい事業運営であった。

1度目は第7波が襲来した時であった。当時はコロナの感染拡大は、病床の逼迫を背景に感染しても入院しづらい状況にあり、保健所の指導の下、多くの利用者が施設内で療養することとなった。そして2度目は第8波の時。この頃には医療施設等も整備が進み、比較的入院ができるようになっていたが、大きなコロナの波は、職員が出勤できない事象も発生し、限られた人数で運営していくことに大変苦勞したことを覚えている。しかし、このような状況でも我々が新型コロナウイルスと戦えたのは、多くの方々から頂戴した温かい励ましの言葉であった。職員は過酷な勤務の中、自身も感染するリスクがあるにも関わらず、利用者の生命を第一に献身的に支え、事態収束に向けて一丸となって対応して頂いている。もちろん職員の力無くして収束することはできなかったと思うが、小川ホームを応援してくれる皆様の支えがあったからだと心中より感謝している。

この他、今年度は安定した財務基盤と質の高いサービス提供の確保を掲げ、取り組んできている。感染症予防マニュアル及びBCP計画を改定した他、緊急事態を即座に知らせることができるモバイルメッセージアプリケーションの活用、安全対策体制加算の取得、初任者研修や認知症の研修等への受講支援、更には介護職員の喀痰吸引等研修にも受講させるなど、緊急時に強い体制と多様化するニーズに応じて行ける体制を整備した。

また、今年度は社会福祉法人としての公益活動についても目標の一つとし、地域の方々と一緒に「だれでも食堂おがワン広場」を11月にオープンすることができた。この取り組みは、「誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会 みらい」（二層協議会）の皆様のお力添えがなければ実現することはできなかった。子どもも高齢者も障がいのある方もだれでも来てもらえる食事のできる心温まる居場所づくりに、小川ホームにお声掛け頂いたことに感謝申し上げたい。これからは小川ホームが地域にあって良かったと思っ頂けるよう、このだれでも食堂を通して地域に貢献した行きたい。

最後に新型コロナウイルス感染症が国内で初めて確認されてから3年を経過し、来年度には感染症法上の位置付けが第5類に引き下げられる。マスクの着用についても“個人の判断”となった今、高齢者施設においても規制緩和が進むことを期待し、次年度は今年度以上の新しい取り組みができるよう、引き続き、強い使命感を持って利用者の生活を支えられるよう取り組んで参りたい。以上、今年度の事業報告とする。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
在籍数	76	75	77	78	77	75	74
延べ人数	2,123	2,232	2,060	2,224	2,128	2,049	2,171
1日当り	70.8	72.0	68.7	71.7	68.6	68.3	70.0
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R3年度
在籍数	77	78	75	74	76	911	911
延べ人数	2,091	2,182	2,079	1,987	2,232	26,454	26,194
1日当り	69.7	70.4	67.1	71.0	72.0	72.4	72.4

※ 在籍数が77床を超えている月は、長期療養者が含まれているため。

(2) 介護保険者（市・区）別入所者

	男性	女性	計
小平市	13	57	70
他市区	0	7	7
計	13	64	77

(3) 入所者の要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	現入所者		※R3年度	
	男性	女性	男性	女性
要介護1	0	0	0	0
要介護2	0	1	0	3
要介護3	7	17	6	21
要介護4	5	26	4	23
要介護5	1	20	4	16
計	13	64	14	63
介護度平均	3.53	3.82	3.85	3.82
総員介護度平均	3.93		3.83	
介護度4・5の占める割合	67.5%		61%	

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1・J2	生活自立	0	0	0
A1	準寝たきり	2	6	8
A2		4	7	11
B1	寝たきり	4	23	27
B2		2	17	19
C1		1	4	5
C2		0	7	7
計		13	64	77

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	0	0
I	1	1	2
Ⅱa	0	4	4
Ⅱb	3	9	12
Ⅲa	5	21	26
Ⅲb	4	19	23
Ⅳ	0	4	4
M	0	6	6
計	13	64	77
Ⅲa以上の占める割合	76.6%		

d. 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	1	0	1
65～69	0	1	1
70～74	4	1	5
75～79	3	2	5
80～84	1	9	10
85～89	2	25	27
90～94	2	17	19
95以上	0	9	9
計	13	64	77
平均年齢	78.8	88.6	87.0

(4) 年度内の入退所者状況 (R5.3.31現在)

a. 要介護度の内訳

	入所		計	退所		計
	男性	女性		男性	女性	
要介護3	2	5	7	2	3	5
要介護4	2	4	6	1	2	3
要介護5	0	4	4	2	8	10
その他	0	0	0	0	0	0
計	4	13	17	5	13	18

※ 入退所数の誤差1名分は、昨年度に退所が決定していたが、手続き等が完了せず、差異が生じた。

b. 入所前の状況 (今年度)

入所前の状況	男性	女性	計
自宅から入所	3	7	10
老人保健施設から入所	0	3	3
病院及び療養型から入所	1	1	2
その他入所 (有料、グループホーム等)	0	2	2
計	4	13	17

c. 退所理由

理由	男性	女性	計
家族引取り	0	1	1
他施入所	0	1	1
長期入院・療養型	2	2	4
施設内死亡	看取	2	3
	検死	0	0
入院後死亡	2	7	9
計	5	13	18

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄

プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日 中			夜 間		
	男	女	計	男	女	計
自立	6	15	21	3	9	12
トイレ誘導	5	33	38	1	2	3
ポータブル介助	0	1	1	0	13	13
尿・便器介助	0	0	0	1	0	1
オムツ	2	15	17	8	40	48
計	13	64	77	13	64	77

※ 排泄物の量や質について職員の評価基準を統一させるため、スケール表を導入し、その評価から利用者一人ひとりの支援を検討した。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	7	20	27
一部介助	4	29	33
全介助	2	15	17
計	13	64	77

一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じて介助する方

全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	8	23	31
一部介助	4	28	32
全介助	1	13	14
計	13	64	77

一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）

全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア

口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		7	23	30
要介助	声かけ	5	17	22
	うがい	0	1	1
	義歯	0	8	8
	歯磨	1	9	10
	コットン	0	6	6
計		13	64	77

声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す

洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ、うがい）を実施

義 歯 職員が歯ブラシで洗浄、うがい介助、夜間はポリドント洗浄

歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方

コットン コットンにて洗浄

(5) 入浴

清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいただけるよう実施している。

項目	男	女	計	
自立	1	16	17	
介助	一部介助	8	31	39
	全介助	2	8	10
	清拭	0	0	0
	機械浴 (ストレッチャー)	2	9	11
計	13	64	77	

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方

全介助 疾患により不十分な方

※ 清潔保持と心身のリラックスのため、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の好みを尊重し、時間設定した対応をしてきた。

(6) 食事

温かい雰囲気できちんと食べられるよう配慮し提供している。

項目	男	女	計
自立	9	43	52
一部介助	4	8	12
全介助	0	5	5
経管栄養等	0	8	8
計	13	64	77

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

※ 食事は利用者にとっては日常生活の楽しみのひとつとなっている。その人に合った食事や好む食事を目標に介護・看護職員他、管理栄養士が毎日ミールラウンドを行い、食形態や量など利用者の変化に対応するよう努めている。

「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導

残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項目		男	女	計
自立	歩行	3	4	7
	シルバーカー歩行器	0	5	5
	車椅子	4	14	18
要介助	誘導 (杖)	0	1	1
	車椅子 (一部介助)	2	6	8
	車椅子 (全介助)	2	31	33
	歩行介助	2	3	5
計		13	64	77

自立歩行 声かけのみで目的地へ行ける

誘導 声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける

車椅子 (一部介助) 移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける

車椅子 (全介助) 移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【行事活動】

(1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
5月4～6日	菖蒲湯	入浴の際に浴槽内で菖蒲の香を楽しむ。菖蒲独特の爽やかな香りが邪気を払い、無病息災の祈りを込める。	ホーム内
5月9日	母の日	カーネーションを持って頂き記念撮影を行う。	ホーム内
6月13日	父の日	アルコール飲料(ノンアルコールも含む)をおやつ時間に提供し楽しまれているところを写真撮影する。	ホーム内
6月26日	お楽しみ会 ミニ運動会	紅白に分かれて職員と一緒に玉入れや綱引きなど競技を行う。職員の催し物(ソーラン節)も同様に一緒になって声を張り上げ身体を動かし、ストレス発散と筋力維持につなげる。	ホーム内
7月1～7日	七夕	短冊に願いを込めてフロアの笹に飾る。七夕に因んだ食事を提供し、季節感も味わう。	ホーム内
7月13～16日	盆供養	フロアに祭壇を設置して故人が生前を過ごした施設に迎え、冥福を祈ると共に霊魂を供養する。	ホーム内
9月19日	敬老会・秋祭り	紅白幕でお祝いムードを盛り上げ長寿のお祝いを行う。お祝い膳やお菓子・ジュース・酒類も提供し楽しい時間を過ごしてもらう。	ホーム内
11月22日	お楽しみ会	綿あめを作る工程を楽しみながら美味しく召し上がって頂く。	ホーム内
12月18日	クリスマス 年忘れ会	クリスマス飾りを施し、職員もサンタクロースに仮装。カラオケ大会にダンス、合唱などで楽しんで頂く。昼食に華やかな食事一年の労をねぎらう。	ホーム内
12月20～22日	ゆず湯	旬を迎える香り高い柚子を浴槽に入れ、スッキリした香りが心を落ち着かせ、日々の疲れを癒す。	ホーム内
1月1日	新年祝賀会	フロアを装飾し、おせち料理やお屠蘇で新年の幕開けを祝い正月を楽しむ。	ホーム内
2月3日	節分	鬼に扮した職員に利用者様が豆をまき、厄を払う。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、おやつに和菓子を頂き桃の節句を祝う	ホーム内

(2) レク・クラブ活動(実動)

- ◆ 集団…料理クラブ、華道クラブ、歌集を用いての歌、体操、手遊び、パタカラ体操、ボール投げ、ボール送り、テニス、ホワイトボードを用いてのクイズ、なぞなぞなど
- ◆ 個人…塗り絵、折り紙、スクラッチアート、編み物、パズル、計算ドリルなど

(3) 活動支援

◆ 面会等

新型コロナウイルス感染症のため、オンライン面会及び窓越し面会の他、電話や広報、写真などで様子をお伝えするなど、可能な限り利用者と家族が繋がる機会をつくれるよう努力をした。

◆ 相談支援等

一同を介する利用者懇談会の形式から、個別に実施する形式に変更。月間予定表の配布と利用者の意見や要望、連絡の場だけではなく、利用者の不安や心配事を聴くことに重きを置いて取り組んだ。来年度は、従来の利用者懇談会の形式に戻し、安全に活動していく。

◆ 理容・美容

毎月理容1回、美容2回地域の理美容師により実施している。理美容師の方々にも標準予防策の実施の他、フェイスシールドと手袋を着用してもらい、接触を限りなく避ける形で実施した。

◆ 嗜好品購入

ご家族様等による嗜好品の持参の他、生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。

【健康状況】

(1) 定期診察状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	71 (126)	75 (118)	68 (141)	74 (129)	59 (107)	72 (123)	75 (126)
精神科	34 (24)	36 (25)	34 (24)	34 (24)	33 (24)	32 (23)	13 (25)
歯科	64	88	50	28	-	32	66
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総数
内科	70 (126)	71 (127)	67 (126)	63 (113)	74 (157)	1,058 (1,519)	2,577
精神科	30 (22)	31 (22)	26 (25)	21 (19)	28 (19)	369 (267)	636
歯科	64	63	-	64	71	604	
						計 3,817	

【診察のみ（診察処方）とで区別してカウント】

(2) 健康診断状況と新型コロナワクチン接種・インフルエンザ予防接種

※ 定期健康診断は、年1回実施している。

※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う（入院中利用者除く）。

- 新型コロナワクチン接種者 : 68名（退所者は除く）
- 季節型インフルエンザ接種者 : 66名

(3) 外来受診状況

診療科	内科		脳神経外科		整形外科		皮膚科		眼科	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	27	128	0	5	7	28	11	36	2	6
診療科	泌尿器科		精神科		救急外来		その他			
	男	女	男	女	男	女	男	女		
件数	0	2	0	3	4	19	0	39		

(4) 受診先医療機関

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	175	緑風荘病院	30	東大和病院	23	公立昭和病院	10
一橋病院	3	あかしあ脳外科	3	東大和病院 セントラルCL	2	多摩済生病院	2
その他（新型コロナウイルス感染症関連施設等含む）					21	計 248 件	

(5) 入院期間

日数	0～7	8～14	15～30	31～90	90～	合計
男	4	3	1	1	0	9
女	4	10	12	9	1	36
計	8	13	13	10	1	45

(6) 入院患者病名

病名	人数	病名	人数
新型コロナウイルス感染症	16	上部消化管出血	1
肺炎（誤嚥性肺炎含む）	13	胃瘻造設	1
食欲不振	3	肝機能障害	1
尿路感染（腎盂腎炎含む）	3	胆嚢炎	1
骨折	2	その他	8

【延べ人数でカウント】

3. 地域連携・ボランティア・実習生委員会の活動

(1) 地域連携（公益活動）

※ 指定介護老人福祉施設小川ホーム事業報告の運営概況を参照

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
個人	買い物、縫い物、理容・美容（有料）

買い物、縫い物は、利用者と接触しない方法で実施、理容・美容については、上記（2）活動支援の「理容・美容」を参照。

(3) 実習生の受け入れ

形式	学校名	人数	延べ人数	研修（実習）目的
現場	東京医療保健大学	6	18	看護実習
	東京 YMCA 医療福祉専門学校	2	30	介護実習
	白梅学園大学	1	20	介護実習
	かいごチャレンジ事業	2	3	インターンシップ
端末	武蔵野美術大学	13	91	教員実習に伴う介護体験

4. 各係

(1) 介護事故予防委員会

ケアカンファレンスや研修を通して職員に対して事故予防策の周知や事故予測の向上を図ってきた。新型コロナ感染症が発生し通常とは異なる状況が続く中事故発生件数については 72 件と昨年から約 50 件の減少になっている。市へ報告している重大事故については 4 件発生となっている。次年度は、昨年から引き続き、より利用者の理解を深め事故予防に努めていく。また、職員教育も引き続き行っていき事故予測能力やアセスメント能力を高めて行けるようにしたい。

(2) 身体拘束廃止委員会・虐待防止委員会

夏と冬に新型コロナウイルス感染症の発生により、職員は精神的・肉体的に大きなストレスとなったのは間違いない。そんな状況の中でも、興奮する認知症利用者に代わるがわる対応しに行く姿が毎日のように見られた。言葉を選び必死に利用者に向き合う姿は、少なからず日常業務や研修で得た利用者一人ひとりの心を大切にするという思いが職員の心の中にもしっかりと芽生えていると確信ができた。

定期的に行う研修については認知症を理解し正しいケアを行うことで、不適切なケアを予防していくという内容を実施した。具体例を挙げて理解しやすくすることでケアの見直しを行い、利用者がこころ安らかに過ごすことができるよう次年度も取り組んでいきたい。

(3) 感染症予防委員会

今年度も引き続き、感染症対策にあたっては、国や自治体等さらには社会状況を注視しながら、利用者の生活への影響も考慮し、様々な感染対策を講じてきたが、2度のクラスターを発生させてしまった。

また研修にあたっては、新型コロナウイルス感染（COVID-19）をメインとし、防護服の着脱や食中毒とノロウイルス、インフルエンザの予防について、各感染症の特性と標準予防策の重要性を中心に研修を実施した。職員一人ひとりが感染症予防に対し、高い意志を持って職員全体で協力して取り組むことができた。

(4) 看取り介護委員会

今期は3名の利用者を施設で看取ることができた。コロナ禍の中ではあったが家族の面会時間を極端に制限することなく、一緒に過ごす時間を大切に支援させて頂いた。今後も施設で最期を迎える機会が増えてくることが予想される。

次年度は、更なる体制の整備を行い最善の看護と介護が行えるようにし、看取り加算の取得を目標に実現できるように努めていきたい。

(5) 褥瘡予防委員会

多職種と連携し、介護用品の継続的な補整強化及び除圧への取り組みの他、栄養ケアにも力を入れ、褥瘡予防に努めてきた。利用者一人ひとりアセスメントを実施し、褥瘡予防支援を現場に周知させる他、発赤や出血等の皮膚トラブルを発見した場合には、チェックシートを用いて毎日皮膚状態を観察及び処置を行い、重症化しない取り組みを確立することができた。

今後も委員会が中心となり、多職種と連携し適切なサービスを提供していきたい。

(6) 食事係

看護・介護・栄養士・ケアマネ・訪問歯科・作業療法士と多職種協働で利用者の状態変化の情報共有を行い、食器や自助具の選定、食席での良姿勢保持、食事形態や提供方法の工夫、義歯調整などを実施してきたが、認知症の進行や加齢によるADLの低下で自己摂取できていた方が介助となるケースや口腔機能や嚥下能力低下により誤嚥性肺炎で入院となるケースが多くみられた。利用者が食事を安心して少しでも長く食べることを楽しんで頂けるよう介助にあたる職員の知識や食事介助の技術向上のための研修強化にも取り組んでいきたい。

(7) 排泄係

排泄支援加算の取得を目的としてオムツ・パット類を新たに選定し直したが、特定の利用者に対して排泄状態の改善に関する支援計画を作成するまでには至らず、物品の導入のみとなってしまう。しかし、新型コロナウイルス感染症対応時の特別な状況下では平常時よりも排泄介助の回数を減らし他の対応にあたる等の業務変更もあったが、新たに導入した質の良いパットと陰部洗浄の徹底、ワセリンを使用し皮膚の保護をすることで、利用者への肌への負担は抑えることができた。次年度は介護の質の向上に繋がる取り組みをより一層進められるよう、排泄の状態の改善に取り組んでいきたい。

(8)入浴係

介護、看護、相談員と連携し、男性・女性の一般浴、機械浴を日曜日以外毎日実施し、一日に対応できる入浴人数や介護量の平均化、ショートステイ利用者がいつでも入浴できる体制を整えた。これにより利用者個々の身体機能の変化に早期対応することが可能となり特定の曜日のみが重度化が著しい等の問題も解決することができた。ショートステイ利用者も利用日数や曜日に関係なく入浴が可能となり受け入れの幅が広がった。また、職員の人員確保が困難ななか、少ない人数でも対応して行ける柔軟性のある入浴介助体制を確立することができた。次年度はさらなる入浴介助体制の向上のため職員教育も含めた PDCA サイクルを実施して、利用者が安心、安全に楽しみをもって入浴できる環境の整備に努めていきたい。

(9)ケアプラン係

コロナ禍で制限の多い生活を余儀なくされる中、利用者個々が望むその人らしく尊厳のある生活を支援していくのは厳しい1年であった。科学的介護の導入や個別機能訓練加算の取得にも至らず通常の生活へと戻すことが一番の課題であった。ご家族面会では一部の利用者は実施できたが、利用者全員の満足度を上げることには繋がらなかった。個別・集団レクにおいても充実した支援内容には至らず、利用者に笑顔になってもらおうとできる範囲内で工夫しレクを行っていた。マスクにフェイスシールドをしている状態では利用者への言葉かけさえも大きな声を出さなければ聞き取ってもらえなかったが、利用者に聞こえるよう大きな声で歌を唄ったり、体操の号令では声を張り上げたりして実施していた。

次年度は職員一人ひとりのアセスメント能力を高め、多職種によるチームとして「共通の目標」「役割分担」「協力」を意識したチーム作りを行いその人らしい暮らしの継続を提供できるよう努めていきたい。

(10)レク・クラブ係

施設内でのコロナウイルス蔓延により7・8・1・2月においてはクラブ・レクリエーションの実施はできなかった。

コロナ禍において家族との時間や外出の機会ができない中、施設内で行えるレクリエーション活動に力を入れ取り組んだ。レクリエーションの内容については職員各々が工夫し体操や歌、クイズ等利用者さんに楽しんでもらおうと考え実施できていた。3階フロアにおいては早番が業務として行うことで定着できていたが、2階フロアにおいては難しかった。次年度は2階でも定着して行えるようにレク手順のマニュアル化、レクメニューの充実、業務体制を整える必要があると考える。

クラブについては華道クラブのみ行える。次年度からは栄養士と協力し料理クラブを行う予定となっている。

(11)ショートステイ係

※ ショートステイ係は、短期入所生活介護事業報告欄を参照。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1481
たんぱく質 (g)	58.0	58.5
脂質 (g)	35.0	36.3
カルシウム (mg)	661	661
鉄 (mg)	6.2	7.0
ビタミンA (μg)	729	689
ビタミンB1 (mg)	1.00	1.11
ビタミンB2 (mg)	1.20	0.90
ナイアシン (mg)	11.0	13.0

ビタミンC	(mg)	100	93
食塩相当量	(g)	7.2以下	7.2
食物繊維	(g)	17.6	15.9
炭水化物エネルギー比	(%)	63.5	62.2
脂肪エネルギー比	(%)	21	22.0
蛋白質エネルギー比	(%)	15.5	15.8

給与栄養基準量		基準栄養量に対する 給与摂取量の比率	
エネルギー	1500 kcal	99%	
タンパク質	58 g	101%	
脂質	35 g	104%	

(令和5年3月分)

行事食メニュー 令和4年度

月	日	行事	献立
4	4	郷土料理の日	～沖縄県～ ジューシー、味噌汁、フーチャンプルー、大根の含め煮、ヨーグルト
	5	桜祭り	桜ご飯、清汁、魚の竜田揚げ、かぼちゃの甘辛煮、浅漬け ＜間食＞ねりきり（桜）
	8	お楽しみ献立	ご飯、清汁、刺し身、じゃが芋のそぼろあん、インゲンの胡麻和え
	20	赤飯の日	赤飯、味噌汁、さばの竜田揚げ、魚河岸揚げの炊き合わせ、ほうれん草のなめ茸和え
	27	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐かにあん、小松菜の磯和え
5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン ＜間食＞生菓子（ねりきり）
	8	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 ＜間食＞プチケーキ（キャラメル）
	11	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物
6	1	赤飯の日	赤飯、味噌汁、魚の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	5	お楽しみ献立	散らし寿司、けんちん汁、なめこ豆腐、マンゴーケーキ
	17	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれいの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
	19	父の日	鮭の散らし寿司、清汁、夏野菜の炊き合わせ、お浸し （間）どら焼き
7	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー
	14	赤飯の日	赤飯、豚汁、鮭の香り蒸し、里芋の煮付け、海老と三つ葉のみぞれ和え
	17	お楽しみ献立	吉野家の牛丼、清汁、かぶの海老あんかけ、胡瓜とわかめの酢の物
8	6	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、卵豆腐、だし（和え物）
	7	お楽しみ献立	たいめいけんハヤシライス、クリームスープ、大根サラダ、フルーツヨーグルト
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、角天の炊き合わせ、しその実和え
	17	赤飯の日	赤飯、味噌汁、揚げ鶏のみぞれ煮、オクラとモロヘイヤのねばねば和え、レアチーズムース
9	3	お楽しみ献立日	デミグラスオムライス、コンソメスープ、豆サラダ、フルーチェ
	19	敬老の日	（間）ブーケケーキ
	20	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
10	1	赤飯の日	赤飯、けんちん汁、鮭の幽庵焼き、炊き合わせ、酢の物
	6	郷土料理の日	～大分県～ ひじきご飯、味噌汁、とり天、がめ煮、酒まんじゅう
	18	お楽しみ献立	栗おこわ、赤だし味噌汁、鯖の紅葉焼き、茸の焼き浸し、柿の白和え
11	14	お楽しみ献立	ねぎとろ丼、清汁、厚揚げの五目煮、ほうれん草と干し菊のお浸し
	24	赤飯の日	赤飯、清汁、白身魚の揚げだし、豆腐の肉野菜あん、抹茶プリン

	30	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、大根のえびあんかけ、ピーナッツ和え
12	2	郷土料理の日	～東京都～深川めし、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	16	赤飯の日	赤飯、清汁、鱈の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え
	18	年忘れ会	お弁当：太巻き、いなり寿司、クリームコロッケ、海老フライ、さつま芋サラダ、浅漬け、一口ロールケーキ、コーンかき玉スープ
	25	クリスマス	ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、卵のツリーサラダ、レモンケーキ
	31	年越しそば	ご飯、一口年越しそば、金目鯛の煮付、炊き合わせ、りんごのコンポート
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、松竹梅蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、寿錦玉子 二の重：ブリの照り焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、一口昆布巻 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人参、野菜しんじょう、椎茸、寿高野豆腐、六角里芋、ふき、絹さや）
	2	正月	ご飯、お雑煮風汁、鱈の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、千枚漬け
	3	正月	ねぎとろ丼、きのこ汁、揚げだし豆腐、オクラの梅肉和え
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	12	お楽しみ献立	オムライス、クリームスープ、ポテトサラダ、果物
	18	赤飯の日	赤飯、清汁、白身魚の香り蒸し、けんちん煮、白菜のゆかり和え
	2	3	節分
2	10	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、枝豆のあんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	16	握り寿司の日	握り寿司、かんばん巻、清汁、かに豆腐、小松菜のピーナッツ和え
	3	桃の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え 〈間食〉 ねりきり
3	8	赤飯の日	赤飯、清汁、金目鯛の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	17	お楽しみ献立	鯛めし、清汁、炊き合わせ、浅漬け

短期入所生活介護
事業報告

運営概況

特別養護老人ホーム同様、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防や対応について重点を置きながらの運営となった。施設内への持ち込みを予防するため、職員の感染対策はもちろん、利用者及び同居家族等の健康確認や生活状況を含め事前聴取し、利用前 PCR 検査と当日の抗原検査を実施した他、個室をショートステイ専用床にするなど、安全を確認した上で利用して頂いた。しかし小川ホームのショートステイは特別養護老人ホームに併設しているため、エリア分離は限界があり、結果的に感染者を出してしまった。また、クラスターの発生により、受入停止する事態となり、稼働率も75%の目標に届かなかった。

利用者の在宅生活を支える上では、必要不可欠なサービスであることは変わらない。次年度も感染対策を継続しつつ、利用者ニーズを捉え、在宅生活が継続できるよう、質の高いサービスを提供できる体制も整備して行きたい。

1. 令和4年度月別利用実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
項目							
稼働日数	30	31	30	31	31	30	31
延べ人数	87	101	136	129	80	78	81
1日当たり	2.9	3.3	4.5	4.2	2.6	2.6	2.6
稼働率	72.5	82.5	112.5	105.0	65.0	65.0	65.0
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R3年度
項目							
稼働日数	30	31	31	28	31	365	352
延べ人数	87	77	39	72	126	1,093	1,394
1日当たり	2.9	2.5	1.3	2.6	4.1	3.0	3.9
稼働率	72.5	62.5	32.5	65.0	102.5	75.0%	88.2%

小川ホーム デイサービスセンター 事業報告

運営概況

事業目標に対して：

- 法人理念である「ご利用者の心を大切にし、健全で安らかな生活を支えるという考え方」行動をとれていたと思われる。

- 中重度者利用率

年度	実績
令和3年度	23.8%
令和4年度	23.5%

※中重度者利用率に大きな変化は見られていない。今年度も、認知症の進行に伴う新規相談が多く見られた。

- 通所介護事業

年度	目標	実績
令和3年度	90%	73.1%
令和4年度	90%	77.7%

※コロナ禍ではあるが、申し込み状況は、小川ホーム計画センターを中心として堅調な状況。ただし、ショートステイや入院などのケースが多く、登録人数と実利用人数との差が大きく見られた。長期欠席者の状況を担当の介護支援専門員と連絡をこまめにとり、状況に合わせて、ご利用希望者の受け入れ調整を早めていくことがポイントと考える。

※今年度は、7月19日～7月26日にかけて、新型コロナウイルス蔓延による感染拡大予防と職員配置困難に伴い、営業停止となった。常勤職員3名中、2名が感染。平時より、常勤職員間で各業務に対応できる体制づくりが必要。

- 市独自基準通所介護事業

年度	目標	実績
令和3年度	50%	36.6%
令和4年度	50%	41.8%

※緩和型デイサービスについては、職員1名体制で運営。体操、書道、音楽活動を実施。心身の活性を促すことができた利用者も多く見られたが、加齢に伴う認知面、身体機能の低下が見られ、緩和型デイから通常デイへ移行のタイミングをご本人、ご家族と相談が必要なケースも見られてきている。

目標達成に向け、空き情報を地域包括支援センターへ情報提供を行いたい。

- 個別、グループ活動の面は、職員の創意工夫もあり、楽しみや活力・集う喜びを得られ、心穏やかに過ごせるような援助をできている。
- 研修については、オンラインでの研修については、時間調整がつきやすく、参加率向上につながる期待あり。また、前年同様、研修マニュアルが不完全なため、改めて研修計画の練り直しが必要である。

- ▶ 通所介護計画書作成、フェイスシート更新業務については、3人の常勤介護職員(生活相談員)間で、介護業務の関わり比率を検討の上、分担制を導入。スムーズな介護支援ができるよう業務につなげたい。

1. 月別実績

内容/月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	要支援(緩デイ)	78	76	67	38	66	64	80	76	73	78	82	94	133
	要支援(通デイ)	133	147	146	88	135	125	130	138	107	112	123	133	863
	通常デイ	553	537	545	354	535	556	549	570	521	507	522	572	6,321
	計	765	760	757	477	735	748	760	785	706	696	723	807	8719
	(3年度計)	731	704	715	772	786	850	795	776	708	714	678	744	8,973
新規	予防	1	1	0	0	1	0	0	1	0	1	2	1	8
	介護	0	1	1	0	2	5	0	7	0	0	2	2	20
	計	1	2	1	0	3	5	0	8	0	1	4	3	28
廃止	予防	4	2	1	0	0	2	0	1	3	0	0	1	14
	介護	5	2	2	1	1	3	3	0	5	2	2	3	29
	計	9	4	3	1	1	5	3	1	8	2	2	4	43
予防	運動機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	9	9	9	6	8	9	9	8	8	8	8	9	100
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	19	37
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	201	197	184	125	182	195	188	215	188	192	208	226	2,301
	入浴(機械)	105	105	114	71	103	94	104	95	93	80	81	81	1,126

2. 要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
~64	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	
65~74	男	0	1	0	1	0	0	0	2	6.0
	女	1	1	1	1	0	1	0	5	
	計	1	2	1	2	0	1	0	7	
75~84	男	1	1	2	3	0	2	0	9	31.9
	女	6	5	10	4	1	2	0	28	
	計	7	6	12	7	1	4	0	37	
85~89	男	2	1	2	1	0	0	0	6	28.5
	女	3	8	8	5	2	1	0	27	
	計	5	9	10	6	2	1	0	33	
90~	男	1	2	1	1	2	0	0	7	33.6
	女	4	8	13	2	2	1	2	32	
	計	5	10	14	3	4	1	2	39	
計	男	4	5	5	6	2	2	0	24	100.0
	女	14	22	32	12	5	5	2	92	
	計	18	27	37	18	7	7	2	116	

(令和5年3月分)

3. 移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	17	67	84
	介助	3	14	17
車椅子	自力	0	1	1
	介助	4	10	14
計		24	92	116

(令和5年3月分)

4. 地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	3	3
小川町2	0	0	0
小川西町	14	49	63
小川東町	5	17	22
栄町	0	0	0
上水本町	1	0	1
学園西町	2	8	10
学園東町	0	0	0
仲町	0	0	0
津田町	2	10	12
たかの台	0	1	1
上水新町	0	1	1
東村山市	0	3	3
東大和市	0	0	0
計	24	92	116

(令和5年3月分)

行事

行事名	暑気払い (すいか割り大会)
日程 場所 参加人数	※新型コロナウイルス感染予防のため中止。
行事名	暑気払い (かき氷大会)
日程 場所 参加人数	※新型コロナウイルス感染予防のため中止。
行事名	夏祭り (ビアガーデン)
日程 場所 参加人数	※新型コロナウイルス感染予防のため中止。
行事名	忘年会
日程 場所 参加人数	12月22～28日 小川ホーム活動室 146名 (延べ人数 ※ご利用者)
行事名	初詣 ※新型コロナウイルス感染予防のため中止。代わりに、施設内に神社を作り、初詣実施。

小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

運営概況

令和4年度の事業目標「稼働時間月平均700時間以上実施」を設定したが、前年度と同じく大幅に達成できなかった。

その主な原因としては、今年度もヘルパーの確保ができなかったことや、身体介護に入れるヘルパーの減少に伴い新規獲得を行っても週1の利用者が多く稼働時間を増やすことができなかった。また、毎日訪問していた利用者の入所などが続き終了するケースも原因だと思われる。

この一年間で受け付けた新規依頼は39件と前年度の29件は上回った。内訳が要介護17件・要支援22件となった。昨年同様、毎日訪問介護を利用されていた利用者が亡くなったり、在宅での生活に不安を感じ施設を希望し入所されたり、体調を崩されて入院などがあり、同時にヘルパーの慢性的な人材不足も挙げられる。

令和4年度は「特定事業所加算Ⅰ」の加算を算定することができず、「特定事業所加算Ⅱ」の加算を算定している。今後また、「特定事業者加算Ⅰ」を算定していくためには、重度（要介護4及び5、日常生活認知度Ⅲa以上）の利用者を多く受け入れていく必要がある。人材確保のためにヘルパー養成事業や、新しい雇用形態の創設などを検討していく必要性を強く感じているが、非常勤ヘルパーの高年齢化も進み、体力的に身体介護が負担となっている。新規の依頼があった場合も身体介護を受けることが殆どできない状況は変わっていない。令和4年度も生活援助中心になっていたのも、厳しい状況だった。この状況の改善の為、11月よりサービス提供責任者2名増やした。今まで以上に積極的に新規利用者の獲得に努めていかないといけない状況である。身体介護に技術的に不安があるヘルパーに対しては今後も研修や同行を行うことを継続し、サービス提供責任者の定期ヘルプも増やししながら今年度は身体介護のヘルプも増やして行きたいと思っている。

総合事業（旧国基準・小平独自基準）は新規依頼22件あったが、終了になったケースもあり、現在の利用者は47名となっている。今後も生活サポーター養成講座を継続して参加するなどして生活サポーターの人材確保、及び育成に努めて行く必要がある。

1. 月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	97	97	94	96	92	90	88
延べ人数	648	668	645	624	659	632	602
1日当り	30.9	30.4	29.3	29.7	28.7	28.7	24.1
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R3年度
件数	87	91	94	98	93	1.117	1.170
延べ人数	596	641	653	583	710	7.661	8.190
1日当り	24.8	25.6	29.7	26.5	24.5	平均27.7	平均31.4

2. 要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男	0	0	1	1	0	0	0	0	2	2.2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	0	0	1	1	0	0	0	0	2	
65～74	男	0	0	1	3	1	0	0	0	5	11.8
	女	0	1	3	1	1	0	0	0	6	
	計	0	1	4	4	2	0	0	0	11	
75～84	男	0	2	3	2	0	0	0	0	7	24.7
	女	0	5	6	3	2	0	0	0	16	
	計	0	7	9	5	2	0	0	0	23	
85～89	男	0	2	0	2	0	1	1	0	7	37.6
	女	0	6	9	7	2	2	3	1	29	
	計	0	8	9	9	2	1	4	1	35	

90～	男	0	0	4	3	0	1	0	0	8	23.7
	女	0	0	4	5	3	1	1	0	14	
	計	0	0	8	8	3	2	1	0	22	
計	男	0	4	9	11	1	2	1	0	28	100
	女	0	12	22	16	8	2	4	1	65	
	計	0	16	31	27	9	4	5	1	93	

(令和5年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	28	65	93
他市	0	0	0
計	28	65	93

(令和5年3月分)

4. サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス時間 (時間)
訪問型サービスⅣ	月1回～4回	9	32	27.3
訪問型サービスⅤ	月4回～8回	4	28	27.7
訪問型サービスⅥ	月9回～12回	0	0	0.0
訪問型サービスⅠ	月5回以上	14	70	68.8
訪問型サービスⅡ	月9回以上	9	77	72.1
訪問型サービスⅢ	月13回以上	2	27	26.5
訪問型サービスⅣ/2	月1回～4回(緩和型)	3	9	8.1
訪問型サービスⅠ/2	月5回以上	4	20	20.0
訪問型サービスⅤ/2	月5回以上	2	16	16.0
身体介護 1	30分未満	4	50	23.6
身体介護 2	30分以上1時間未満	10	53	50.7
身体介護 3	1時間以上1時間30分未満	1	1	1.4
身体介護 4	1時間30分以上2時間未満	0	0	0
身体1生活 1	30分以上1時間未満	7	30	29.8
身体1生活 2	1時間以上1時間30分未満	1	9	12.0
身体1生活 3	1時間30分以上2時間未満	0	0	0.0
身体2生活 1	1時間以上1時間30分未満	2	9	13.5
身体2生活 2	1時間30分以上2時間未満	1	4	8.0
身体2生活 3	2時間以上2時間30分未満	0	0	0.0
身体3生活 1	1時間30分以上2時間未満	1	9	13.8
身体3生活 2	2時間以上2時間30分未満	0	0	0.0
身体3生活 3	2時間30分以上3時間未満	0	0	0.0
身体1夜	30分未満	1	9	4.3
身体2夜	30分以上1時間未満	0	0	0.0
身体1生活1夜	30分以上1時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	30分以上1時間未満	5	13	9.3
生活援助 3	1時間以上1時間30分未満	33	243	242.5
生活援助2夜	30分以上1時間未満	0	0	0.0
生活援助3夜	1時間以上1時間30分未満	0	0	0.0
身体5生1		1	1	3.0
合 計		113	645	678.4

(令和5年3月分)

小川ホーム 介護計画センター 事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

(1) **居宅介護支援(Ⅰ)の基準を維持する。**

取扱件数 40 件未満を満たすことができた。

(2) **特定事業所加算(Ⅰ)または(Ⅱ)の基準を維持する。**

算定要件の⑤「要介護 3～5 の割合が 40%以上」について、月 25～30%の割合となり(Ⅰ)の算定要件に満たなかった。(Ⅱ)を保つことができた。

(3) **認知症高齢者と中重度の要介護高齢者が安心して生活できるよう、地域でのケアマネジャーの役割を担う。**

○新規の利用者受付は年 47 件（初回加算相当、要支援者の委託は除く）。

○地域包括支援センターから依頼のあった困難ケース(認知症独居、支援者が不在 など)に迅速に対応した。

- ・ 認知症独居の方。認知症の自覚が少なく、金銭や書類の管理ができず、食事準備ができなくなり、生活が成り立たなくなってしまう。別居し音信不通の子に対する被害妄想が強く、隣人とのトラブルも増えていた。

包括支援センターと協力し、訪問介護や通所介護の利用により生活を整え、成年後見制度の利用に向けて国立精神・神経医療研究センター病院の受診同行など行った。

別居の姉妹も理解力低下があり、サービス導入について「ケアマネジャーが勝手に行っている」という訴えが継続しており、丁寧に対応している。

- ・ 認知症独居の方。他の居宅支援事業所で担当ケアマネジャーが居たが、「自分を嫌っている」と思い込みあり、ケアマネジャー交代としての依頼あり。

食事に偏りあり決まった物しか食べず提案を受け入れない。生活リズムが不規則、内服管理が曖昧。金銭管理が曖昧、デパートや高級食材を電話で取り寄せるが食べきれず破棄する、などあり。認知症状が進行しあらゆる事の判断が困難になり後見制度を勧めるも断る。在宅医療を何とか導入したが、来訪を断ることが続いた。各事業所で連絡を取り合い在宅での看取りまで対応した。

(4) **現状のニーズを把握し、地域ニーズに即した介護サービスの展開をして行く。**

日々のアセスメントやモニタリングにより、担当利用者のニーズ把握と介護サービスの展開を行った。地域特有の地域ニーズの分析までは至らなかった。

(5) **地域においてより良いサービスを提供する為に、必要な加算を算定できるように事業展開する。**

初回加算：45 件

特定事業所加算Ⅱ：2, 151 件

入院時情報連携加算Ⅰ：13 件

入院時情報連携加算Ⅱ：13 件

退院退所加算Ⅰイ：2 件

通院時情報連携加算：8 件

※退院退所加算Ⅰロ、退院退所加算Ⅱイ、退院退所加算Ⅱロ、緊急時等居宅カンファレンス加算の該当事例は無かった。

(6) **介護支援専門員実務研修における「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力、または協力体制を確保していく。**

実習受入実績：東京都福祉保健財団からの依頼。

前期：令和4年8月18日にオンラインにて実施（新型コロナウイルス感染症の流行・第7波下であったため）。

後期：令和5年2月8日に事務所にて実施。

実習受入事業所として東京都福祉保健財団に連絡をし、協力体制を確保している。

- (7)主任介護支援専門員の役割を認識し、地域包括支援センターの主任介護支援専門員と、連携、協力、協働しながら、地域のケアマネジャーに対してスーパービジョン(アセスメント力、質問力、気づきの提供等)を行い支援していく。また、困難ケースにおいても適切に対応できる体制を整えて行く。

小平市ケアプラン点検事業・ケアプラン指導研修事業に、主任介護支援専門員1名が指導的役割として参加。地域包括支援センターの主任介護支援専門員と協働で、市内の介護支援専門員のケアマネジメントの支援を行った。

地域の「一人ケアマネ」からの電話相談に対し、自己解決できるよう傾聴し対応した。

困難ケースへの対応については、毎週行うミーティングにおいて月1回集中的に事例検討を行い、対応策を研鑽した。

- (8)平時からの医療機関との連携促進及び入退院時において更なる医療機関との連携促進により、医療と介護の連携を図る。

入院時には、北多摩北部保健医療圏共通様式の地域連携情報シートを使用し、入院機関に利用者の情報の提供(承諾を得たもの)とケアマネジャーの連絡先を伝え、連携を図った。

退院時には、退院調整看護師や医療相談員と連絡を取り合い、退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の利用者の生活について連携を行った。退院退所加算は計2件(新型コロナウイルス感染症予防の為にカンファレンスの開催が減少傾向継続)だが、電話で病院MSWらとの情報交換・打ち合わせを行った。

在宅医療介護連携推進協議会主催のテーマ研修にオンライン参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深めた。

その他

- ・新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン研修が継続。小平市ケアプラン研修、認知症ケア向上研修、ケアマネ交流会、ケアマネサロン、東京都介護サービス事業者支援研修、東京都福祉保健財団虐待防止研修等に参加した。
- ・事業所内研修としては、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで、ケアマネジメント技術の向上に努めた。今年度は、厚生労働省から発信された「適切なケアマネジメント手法」の勉強を行った。
- ・ケアマネジメントについて、介護保険サービスでは対応できない事柄について、様々なサービスを探し対応を行った(障害福祉サービス・権利擁護事業サービス等の公的サービスの利用支援等)。また、家族などの支援者が不在の利用者に対しては、手続きの支援を行った(JKKへの連絡、都営住宅申し込み支援、市からの通知の返送、有料老人ホーム事務手続き支援等)。
- ・要介護認定訪問調査については、新型コロナウイルス感染症感染予防の為に、小平市に関しては「実施見合わせ」依頼を行った。

ケアプラン作成件数（当月の月間計画作成数より算定、支援の受託は件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	186	187	188	186	182	176	175
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R3年度
件数	177	176	176	175	168	2,152	2,371

予防プラン受託件数(同上)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	4	4	4	5	6	6	7
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R3年度
件数	7	8	9	12	11	83	17

1. 要介護度別分類

年齢	男女	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
～59	計	0	0	0	2	0	0	0	2
	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	2	0	0	0	2
60～64	計	0	0	1	0	0	1	0	2
	男	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	1	0	0	0	0	1
65～69	計	0	0	1	0	0	0	0	1
	男	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74	計	1	1	5	6	1	1	0	15
	男	1	0	3	3	1	0	0	8
	女	0	1	2	3	0	1	0	7
75～79	計	0	1	3	7	3	2	0	16
	男	0	0	2	2	1	1	0	6
	女	0	1	1	5	2	1	0	10
80～84	計	2	2	14	9	4	6	2	39
	男	2	0	6	3	2	4	1	18
	女	0	2	8	6	2	2	1	21
85～89	計	0	2	20	13	6	4	2	47
	男	0	0	6	4	2	0	0	12
	女	0	2	14	9	4	4	2	35
90～	計	1	1	28	12	7	4	4	60
	男	1	0	8	2	4	1	0	16
	女		1	20	10	3	3	4	41
合計	計	3	8	72	49	21	18	8	179
	男	3	1	26	14	10	7	1	62
	女	0	7	46	35	11	11	7	117

(令和5年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	62	115	179
千葉県千葉市花見川区	0	1	1
埼玉県蕨市	0	1	1
計	62	117	179

(令和5年3月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

小平市の事業方針・計画に基づいて重点項目（事業目標）を中心に業務を遂行してきた。地域包括支援センター（以下「センター」）には、地域包括ケアシステムの構築の推進を基に多種多様な総合的な相談ばかりでなく、地域作りにも積極的に取り組んできた。センターには、地域を作る使命がある為、特に地域作りについては、高齢者自身の介護予防の観点や地域との交流を図りながら地域に根差した活動を行った。今年度も、コロナ禍での対応を余儀なくされ、上期は感染者の発生、濃厚接触者での勤務調整等、新型コロナウイルスに翻弄される事が多かった。ただその中でも、コロナ禍での3年目という事もあり、コロナ禍でもできる事を考え、内容や取り組みを工夫しながら、包括の業務や行事を実施することができた。集合での会議や研修は少なかったが、オンラインを取り入れながら、ICTをうまく活用して実施できた。地域の高齢者がフレイル（※加齢により心身が老い衰えた）状態や外出自粛による閉じこもりからくる運動機能低下や食事の偏りによる栄養状態の悪化等の危険性の問題に発展する恐れもあり、感染に因らない二次的な健康被害にならない様に、フレトレ（※3人以上の仲間で、転倒予防のための「小平いきらく筋力アップ体操」を週1回以上行うトレーニング）や介護予防講座にも力を入れてきた。

取り組んできた結果、数多くの自主グループ化へと繋がっていった事は今年度の大きな成果である。

市内全域を見ても自主グループ化へ繋がった件数としては、中央西圏域（小川ホーム）が最多であった。

その他、総合相談支援、介護予防ケアマネジメント、虐待等・権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメントの業務においても、各職員が責任もって取り組み、高齢者の相談窓口としての責務を果たしてきた。

また、高齢者が安心して暮らせる地域にする為、生活支援コーディネーターが中心に行う、二層協議会の実施、高齢者の見守りや実態把握、介護予防見守りボランティアの登録や交流会の実施、認知症サポーター養成講座の実施、オレンジカフェの開催、家族介護教室の開催においても、地域住民の声に耳を傾け、実施してきた。

今後は、高齢、障害、児童等の制度に横断的に対応が求められるようになってきており、制度の狭間に埋もれる事が無いようにして支援をしていく事が必要である。

この地域課題の解決の為、市や地域の様々な団体、企業、専門家との連携を図り、テーマ設定型地域ケア会議では、「ヤングケアラー・若者ケアラー」の問題をとりあげ、地域共生社会の実現に向けた取り組みを行った。

また施設部門と協働で、社会貢献事業（おがワン広場 だれでも食堂）も実施・開催できた事も地域貢献・地域づくり、という意味では大きな成果と言える。

今後も地域づくりの一翼を担い、他職種、他機関とも連携・協働しながら、センターの役割を担って行きたい。

今年度の各事業の報告は以下のとおり。

○生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの活動について

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症が収束に至らない状況の中、地域の繋がり維持・拡大をどのように図って行ったらよいか、模索が続いた。感染への警戒心がある中、幸いにも、二層協議会員を始めとした地域住民のみなさんの、地域づくりへの熱い思いと勇気に支えられ、感染対策を行いながら、SCとして活動し、地域の繋がり維持・拡大することができた。

令和5年度は、感染症法上の扱いが変更になることから、集まり、交流することが容易になり、新たな繋がり輪を広げていくことができることを期待している。

<二層協議会の開催>誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会「みらい」

日程	主な内容
4月13日	珈琲のある居場所<つなぐ>グループ(以下OGと記載)協議会開催
4月22日	おがワン広場だれでも食堂<よりあい><しきさい>グループ(以降2G)協議会
4月26日	情報マップ<ワイワイ元気支え合い隊>グループ(以降3G)協議会開催
4月28日	なかま🍀中宿<そのまんま~>グループ(以降4G)協議会開催
5月17日	3G ウォーキングラリーさくら公園コース情報収集のためまち歩き
5月18日	1G 青空珈琲会をさくら公園で開催
5月26日	4G 協議会開催
5月27日	2G 協議会開催
6月3日	1G 協議会開催
6月14日	1G ほっと☕カフェつなぐオープニングイベント開催
6月23日	4G 協議会開催
6月24日	2G 協議会開催
6月30日	3G 協議会開催
7月13日	1G ほっと☕カフェつなぐ 戦争と平和の語り継ぎ
7月22日	2G 協議会開催
7月28日	4G 協議会開催
8月4日	3G 協議会開催
9月2日	2G 協議会開催
9月7日	3G 協議会開催
9月13日	1G 協議会開催
9月22日	4G なかま🍀中宿 再オープン
9月25日	2G おがワン広場だれでも食堂 シミュレーション実施
10月11日	2G 協議会開催
10月13日	3G ウォーキングラリー野火止コース情報収集のためまち歩き
10月23日	2G おがワン広場だれでも食堂 プレオープンイベント
10月25日	1G ほっと☕カフェつなぐ 防災講座
10月26日	4G なかま🍀中宿
11月22日	3G コミュニティタクシーぶるべー号で小川西町を巡り情報収集
11月24日	4G なかま🍀中宿
11月25日	2G おがワン広場だれでも食堂 オープン

11月26日	1G	ほっと☕カフェつなぐ 南米音楽コンサート
12月22日	4G	なかま🍀中宿
12月23日	1G	ほっと☕カフェつなぐ クリスマスコンサート
12月25日	2G	おがワン広場だれでも食堂
1月10日	1G	ほっと☕カフェつなぐ 座ってできるヨガ
1月22日	2G	おがワン広場だれでも食堂 給食配布
1月26日	4G	なかま🍀中宿
2月21日	1G	ほっと☕カフェつなぐ 多摩暮らしの動物たち
2月23日	4G	なかま🍀中宿
2月26日	2G	おがワン広場だれでも食堂 給食配布
2月28日	3G	協議会開催
3月21日	1G	ほっと☕カフェつなぐ 東日本大震災詩の朗読
3月23日	4G	なかま🍀中宿
3月26日	2G	おがワン広場だれでも食堂 給食配布
3月28日	3G	情報収集のためのまち歩きを企画したが、悪天候により中止

・地域の会議、行事への参加

- ＜小川西町＞小平西ネット第一ブロック懇談会
 - 小川西町公民館企画委員会
 - 移動式こども食堂カモミール
 - 小川西町公民館認知症予防サークル
- ＜小川東町＞ブリヂストン企画「異才たちのアート展」協働
- ＜津田町＞津田公民館講座企画
- ＜学園西町＞学園西町地域連絡会

・地域の居場所の立ち上げ、運営支援

- フレトレ立ち上げ 6か所
- フレトレフォローアップ
- オレンジカフェ
- サービスB (ふじみふれあいサロン、交友サロンこげら)

・その他

- テーマ設定型地域ケア会議
- こども食堂連絡会参加
- 居場所交流会参加
- 都営住宅集会所活用検討のため JKK と連携
- 小川駅西口開発ワークショップ参加

○介護予防見守りボランティア

見守りボランティアの登録者は3月現在95名（男性38名、女性57名）

- ・通報・相談件数 11件

【登録者内訳】

小川西町：31名（男性13名、女性18名）、小川東町：21名（男性8名、女性13名）
 津田町：10名（男性4名、女性6名）、学園西町：19名（男性8名、女性11名）、
 上水本町：15名（男性5名、女性10名）、他圏域：1名（女性1名）

【見守りボランティアの交流会】

交流会開催の判断を新型コロナの感染拡大状況に合わせて、その都度検討し可能な対応を行ってきた。今後も新型コロナウイルスの感染状況により、交流会の開催、通報等の情報収集を引き続き行っていく。

見守りボランティアの登録は地域活動の起点になる傾向が高い。また、介護予防リーダーや認知症支援リーダーは二層協議会への参加など貴重な人材であり、その役割を担っている。今後も地域の見守りの役割に加え、自身の介護予防の視点から、活動の場が広がるよう働きかける予定でイトマン（ブリヂストン）との協働で地域活動の創出を進めて行けるようにしたい。

日程	主な内容	地区
4月15日	「ぼけますから、よろしくお願ひします」DVD視聴	小川
5月20日	ウォーキングラリー津田学西コースの町歩き	津田
6月17日	訪問看護ステーションユウカリ 言語聴覚士遠藤あかりさんによる〈嚥下について～いつまでもおいしく食事を～〉の講和	小川
7月15日	福祉用具事業所 株式会社ヤマシタのよる「AIによる歩行解析」と「転倒予防と福祉用具」の講和	津田
8月19日	中止	小川
9月16日	「認知症の人と生きる」「ハートネットTV バリフリ・タウン“働くを楽しもう”」DVD視聴	津田
10月21日	福祉用具事業所 フランスベッド、補聴器 パナソニックによる「聞こえ」についての講和と様々な補聴器を見る	小川
11月4日	福祉用具事業所 フランスベッド、補聴器 パナソニックによる「聞こえ」についての講和と様々な補聴器を見る	津田
12月16日	「認知症の人と生きる」「ハートネットTV バリフリ・タウン“働く”を楽しもう」DVD視聴	小川
1月20日	「認知症世界の歩き方」DVD視聴	津田
2月17日	今年度の振り返りと来年度交流会で行いたいことの話し合いと交流	小川
3月17日	今年度の振り返りと来年度交流会で行いたいことの話し合いと交流	津田

○高齢者見守り事業

新型コロナウイルス感染が続いている中、感染対策を行いながら訪問または電話による安否確認を行った。地域の高齢者把握はコロナ禍で把握しにくくなっているため、心配な方は民生委員との連携をとり行った。

○総合相談支援業務及び権利擁護事業について

センターの知名度が広まる中で、本人や家族だけでなく、地域のケアマネジャーからの相談や、医療機関・障害や他の制度にまたがる相談まであり、平均 37 件/月で推移している。コロナ禍での3年目という事もあり、前年度よりも相談件数は多くなっていた。

新型コロナウイルス感染拡大に比例するかのように、月の相談件数は前年度より増えている。全体でいえば、延べ件数は前年度から比べると、かなり多くなっていて 25%の増加、(1076 件増の 5244 件)。新規相談件数は 12%の増加 (51 人増の 444 件)、継続相談も約 27%の増加 (1045 件増の 4820 件) であった。

この事は、単純に終わらないケースが増えていて、病院からの相談ケースも多く、ケースの困難化で色々な機関に連絡調整を図る必要があるなど、地域からまた、ケアマネジャーからの虐待等の相談も多く、迅速に対応が求められるケースが多かった。

具体的な総合相談の主な内容としては、認知症、ガン末期、精神疾患、多問題家族、8050 問題、(90・60 問題) ゴミ屋敷問題、権利擁護(虐待・消費者被害)問題等であった。特に虐待の問題は根深く、すぐには解決とはいかない為、何度も市と中央包括とのコア会議を繰り返して虐待対応にあたってきた。

コロナ禍が長引いている状況においては、潜在化しやすい虐待の問題は、介護する側の家族や、コロナで自粛生活を強いられながら、これまで以上に介護に気を使わなければならない為、ストレスをため込んでいる現状があった。それが虐待を招く要因のひとつでもあり、今年度も前年度より多くの事例にあたり対応をしてきた。

虐待認定の考え方や、コア会議の在り方、ケースの終結にも課題があり、虐待対応マニュアルの見直しにも取り掛かかった。研修においては、事例検討も行い、学びを深める事ができたが、引き続き検討していく必要がある課題とも言える。

認知症の相談件数も、かなりの数が増えてきて、病院、金融機関、民生委員、近所等からの相談が多く、認知症初期集中支援チームへ支援要請や認知症相談会、チェック会を活用して、認知症のケースに対応をしてきた。

他問題家族においても、同居家族が精神疾患を患っていて、医療を中断していたり、適切なサービスの利用や申請をしていなかったりと、包括だけでは、対応しづらい事例も多くあり、障害支援課、保健所、権利擁護センターとも連携をして対応にあたった。

また、今後増加するであろう、身寄りがいない(キーパーソンが不在)高齢者が、サービスを使う時に生じる財産と契約の管理、死後の手続きに関する事例も課題としてあがっている。地域の高齢者が安心して生活ができる様にして、地域のケアマネジャーやセンターが業務範囲を超えて対応せざるを得ない状況にならない様にしていく必要がある。

○包括的・継続的ケアマネジメント業務について

令和4年度も昨年に引き続き、新型コロナの感染予防のため、集合しての研修はほとんどできなかったが、リ・アセスメントによる恒例のケアプラン研修では、各グループの判断で工夫しながら少人数で集合し、最後まで研修することができた。また、リモートでの研修形態に慣れてきて、どの研修企画も参加人数はコロナ前に比べて安定的だった。リモートも慣れれば移動の時間が節約できることや、会場確保が困難になった時など、有効な方法として今後も利用されていくものと思われる。

昨年より取り組み始めたケアマネサロンは、小平市の西エリアにある、包括けやきの郷と包

括小川ホームが合同で、この地域のケアマネジャーが、孤立することなく支え合えるようなネットワークの構築を目標に、身近な話題でケアマネジャー同士が楽しくおしゃべりしたり、疑問や困りごとを語り合ったりできる場を作りたいと企画してきた。

企画には包括だけでなく、主任ケアマネの有志の方たちにも参加して頂きテーマや、内容についてアイデアを頂きながら進めてきた。どの企画もアンケートをみる限り、楽しくて質の良い企画だったとの評価は高かった一方で、サロンが年3回と合同交流会1回をこなす上に5箇所の包括支援センターの交流会や、市の委託で中央センターが主催する座学研修などもあって、呼びかけを受けるケアマネジャーから、「ちょっと多いのでは？」といった意見も聞かれるようになった。

主催する包括支援センターとしても最近では相談件数の増加で多忙を極める日々が続いていることも踏まえ、来年度の取り組みは、参加しやすい回数での企画にして行けるよう市や包括支援センターけやきの郷とも話し合い、5箇所の包括支援センター(以下5包括)全体で検討して行きたい。

また、地域のケアマネジャーから個別に電話での相談も増え、訪問に同行したり、専門職種に繋がったり、中には虐待の対応が求められる案件もあった。今後、ますます多職種との連携やケアマネジャーの質の向上が求められ、それだけ地域のケアマネジャーのストレスも高くなっていくことが予想される。今後も地域のケアマネジャーが燃え尽きることなく、この仕事に誇りをもって継続して頂くために少しでも役立つ研修を企画していきたい。

令和4年度の研修および活動内容は以下のとおり。

[全体研修] 市内の在勤ケアマネジャーを対象とした研修及び活動内容 令和4年度

日程	テーマ	講師 参加者
4月8日	ケアマネサロン準備会打ち合わせ	・けやきの郷 小川ホーム包括
4月13日 4月19日	主マネ連絡会 ケアマネサロン準備会	・小平市主任ケアマネ ・けやきの郷 小川ホーム 包括 準備会メンバー
4月28日	主マネ部会	・5包括主任ケアマネ
5月9日 5月13日 5月19日	ケアマネサロン準備会 ケアプラン指導研修 準備会 ケアマネ連絡会総会 講演 「今ケアマネジャーが押えておきたい事項」	・ケアマネサロン実行委員 ・小平市研修準備会委員 ・やさしい手経営企画部 顧問 岡島 潤子 氏
5月24日	① ケアプラン研修 (リ・アセスメント指導研修)	・受講するケアマネ 指導主マネ 包括
6月15日 6月20日 6月23日 6月28日 6月29日	第1回ケアマネサロン 「こんなときどうしてる？」 第2回サロンの打ち合わせ 主任ケアマネ部会 介護予防に資する地域ケア会議 ケアプラン研修事前打ち合わせ	・市内ケアマネジャー ・けやき 小川ホーム包括 ・サロン実行委員 ・5包括主任ケアマネ ・高齢者支援課 ・居宅きずな 牟田 CM
7月14日 7月19日	① ケアプラン研修(リ・アセスメント) ケアマネサロン打ち合わせ	・牟田CM 村山CM 永畑 ・サロン実行委員
8月23日	ケアマネサロン打ち合わせ 西圏域合同交流会打ち合わせ	・サロン実行委員 ・けやきの郷 小川ホーム

8月25日	主任ケアマネ部会	・5包括主任ケアマネ
9月2日 9月9日 9月16日 9月22日 9月28日	② ケアプラン研修(リ・アセスメント) 5包括合同交流会打ち合わせ 第2回 ケアマネサロン(事業所交流会) 小平市ケアプラン指導研修 「介護現場におけるハラスメント対応を学ぼう 西圏域合同交流会打ち合わせ	・牟田CM 村山CM 永畑 ・5包括主任ケアマネ ・市内ケアマネ 事業所 ・包括中央センター 三菱総研 保坂孝信 氏 ・けやきの郷 小川ホーム 社協 上原氏
10月11日 10月18日 10月20日 10月26日 10月27日	5包括合同交流会打ち合わせ (障害者施設) 包括職員研修 (虐待対応基礎編) 主任ケアマネ対象研修 (スーパービジョンを学ぶ) 西圏域合同交流会打ち合わせ 第3回ケアマネサロンの打ち合わせ 主任ケアマネ部会	・相談支援員 ・東京保健福祉財団 ・高橋 学 氏 (昭和女子大教授) ・社協の上原氏 ・サロン実行委員 包括 ・5包括主任ケアマネ
11月14日 11月15日 11月16日 11月18日 11月28日	第3回ケアマネサロン打ち合わせ 事例検討会 主マネ連絡会 ケアマネ連絡会第2回定例会 「ケアマネット新宿の多職種連会の取り組み」 主マネ研修準備会	・サロン実行委員 包括 ・小川ホーム介護計画センター ・5包括 市内主任ケアマネ ・小平ケアマネ連絡会 ・ケアマネット新宿世話人 ・主任ケアマネ有志 包括
12月1日 12月12日 12月16日 12月21日 12月22日	5包括合同交流会打ち合わせ～ 第3回ケアマネサロン打ち合わせ 西圏域合同ケアマネ交流会 小平市ケアプラン指導研修 「公立病院とケアマネジャーの連携を考える 主任ケアマネ部会	・5包括主任ケアマネ ・サロン実行委員 ・社協 上原氏他 CSW の皆さん ・実行委員 ケアマネ 包括 ・公立昭和病院 ・MSW 石川 澄枝 氏 ・5包括主任ケアマネ
令和5年 1月11日 1月13日 1月17日	小平市ケアプラン指導研修 様式変更について 包括職員研修 第3回ケアマネサロン 事例検討会 (ファシリテーショングラフィック)	・居宅介護支援「ゆいな」 金井 美香 氏 ・東京保健福祉財団高齢者 権利擁護センター川崎氏 ・医師会 CM 田見氏
2月2日 2月7日	5包括合同ケアマネ交流会の打ち合わせ 包括研修 事例検討会	・5包括主任ケアマネ ・包括中央センター
2月15日	5包括合同ケアマネ交流会 「障害福祉サービスから介護保険サービスへ 円滑な連携で切れ目のない支援を考える！」	・市内 相談支援専門員 あさやけ 花形 氏 ・5包括主任ケアマネ 小平市内主任ケアマネ グループワーク
2月16日 2月22日	ケアマネ連絡会 令和4年度定例会 「ヒューマンエラーについて」 主任ケアマネ部会	・ケアマネ連絡会 阿部 和也氏 (老健けやきの郷施設長) ・包括中央センター
3月22日	主任ケアマネ研修 第2回スーパービジョンを学ぶ」	・昭和女子大学教授 高橋 学 氏

○介護予防ケアマネジメント業務・第1号介護予防支援事業について

概ね自前ケースが平均438件と委託ケースは平均103件と推移している。総件数としては、前年度からは平均すると微増であった。0.4%の増であるが、新規件数は年間161件の依頼があり、月の平均として、13件。ケアプランの入れ替わりが多くあった事が要因の一つと考察される。委託ケースの件数は、ほぼ横這いで、平均103件、前年度から5%増となったものの、委託することに苦勞を要した。

理由としては、夫婦プラン（どちらかが介護で一方が支援）の増加や介護から支援になったケースも引き続き対応してもらえるようお願いをした事であった。

ただ依然として、要支援のケースを受け持ってくれる事業所は少数であり、偏りがあると思われる。委託する際の困りごとを聞いたり、基準を明確にしたり、再委託してもらいやすいように、ケアマネ事業所との連携を図った。

今後も、市役所にも投げ掛けて、原因を探り、業務整理・改善も含めて検討して行きたい。

【家族介護教室】

○家族介護教室については、地域のニーズや課題を勘案しつつ開催した。

今年度は同じテーマで、3回シリーズで講座を開催した。（1回目は総論、2回目は人、3回目は、場所が大きなテーマ）

日程	テーマ	講師
5月17日	認知症サポーター養成講座（割り当て分）	包括職員
7月21日	自分と家族の終活を考える「終活の始め時っていつ？」	行政書士法人リーガル・エージェント/包括職員
9月22日	自分と家族の終活を考える「あなたの終活を託せる一回り以上若い人はいますか」	行政書士法人リーガル・エージェント/包括職員
11月17日	自分と家族の終活を考える「あなたらしい人生の終末をどこで迎えるのか」	行政書士法人リーガル・エージェント/包括職員

○地域に発信しているものについて

●市民向けに新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、外出を控えている高齢者や、介護保険サービスの利用を自粛している高齢者向けに、介護予防のために実施したこと。

- ・ウォーキングラリーは、中央西圏域のウォーキングラリーは4コース。

○介護予防関係

・フレトレは、介護予防講座や地域の運動に興味ある方々に働きかけ、準備講座、応援講座を行い、前年度8グループから13グループとなった。その後のフォロー講座も行っている。

・介護予防講座は、「お家で楽しく介護予防 筋力アップ運動と口腔体操を学びましょう」とのテーマにてイトマンスポーツインストラクターの方と訪問看護 ST ユーカリの言語聴覚士の方に講演していただき、11月に3回連続の講座を行った。参加者はのべ26名、その後フレトレ希望の方3名でグループ化に繋がった。

○認知症関係

- ・おれんじカフェ小川は、ほのぼの館で感染対策を行いながら年 11 回実施している。8 月はコロナ感染拡大のために休止している。
- ・認知症家族支援会を 11 月に行った。
- ・認知症支援リーダー交流会を開催（11 月 15 日）
- ・認知症支援リーダーたちが中心となって認知症カフェが 2 か所立ち上がった。話し合いに毎月参加し、協力行った。以前のもを含めて、圏域内に 5 か所、町内に一か所ずつできた。

コロナ禍であり、感染拡大時もあり、不安な状況での活動だったが、地域の介護予防リーダーや認知症支援リーダーの積極的な姿勢に背中を押されて進めてきた。フレトレのグループの増加、認知症カフェの立ち上げと忙しかったが、リーダーのやりがいも繋がり、支援する事ができた。

また、繋がりのない個々に集まった方々がフレトレグループを作っていくのが難しいと感じた。認知症支援リーダーが立ち上げたカフェについても意見の食い違いがあり、支援を継続していく責任の重さも感じている。

○短期集中通所型サービス（C コース）について

コロナ感染拡大のため 5 月からの開催が延期になり、8 月より開始になった。8 月からは 4 名、12 月からは 1 名の参加だった。

途中で骨折したり、病状が悪化したりしたものの通所できた方は 1 名、その後デイサービスに通っているので、本来の目的には到達できていない。

○見守り事業について

4 月時点で 36 名だったが、介護サービスに移行したり、お亡くなりになったりして、年度末の 3 月には 26 名と減少してしまった。

認知症で介護サービスの利用ができない方の訪問も多かったが、見守り件数（登録）に入れていなかった事は反省すべき点であった。

○実態把握事業について

市が行った生活状況アンケートから 令和 4 年度は 88 歳～90 歳の方を抽出し、未回答者 62 名、回答者 38 名の実態把握の訪問を職員全員で行い集計を行った。

見守り登録になったのは 1 名、介護保険新規申請 2 名だった。

○認知症相談会（物忘れ相談会）・もの忘れチェック会について

国立精神神経医療研究センターの医師や認知症コーディネーターとリモートで行い、会場は感染対策を行い実施した。

日程	テーマ
7 月 26 日	もの忘れチェック会：中央包括に依頼
9 月 13 日	物忘れ相談会：3 名
1 月 24 日	もの忘れチェック会：7 名

○認知症地域支援推進員関係の活動について

認知症地域支援推進員の活動を通じて、認知症サポーターさん達がコロナ禍の中でも繋がりを

大切にして、認知症の方が尊厳を持って地域で安心して暮らせるよう環境づくりに尽力されていることを知ることができた。

今年度は新たなおれんじカフェが2カ所立ち上がったので、今後も1カ所でも多く認知症の方の居場所づくりを行ってきたい。

引き続き認知症の方が孤立しないような地域づくりや地域住民の認知症への理解を深めていくことが必要であり、また、サポーター養成講座で新たに認知症サポーターになられた方を地域の活動につなげていくことが課題であると感じている。

【認知症支援リーダー交流会】

日程	テーマ
4月13日	おれんじカフェ立ち上げについての話し合い（上水本町）
4月27日	おれんじカフェ立ち上げについての話し合い（ITフォレスト）
7月27日	おれんじカフェ立ち上げ準備、8月プレオープン（ITフォレスト）
10月27日	おれんじカフェ（ITフォレスト）運営の相談
2月15日	おれんじカフェ（ITフォレスト）次年度年間計画
3月15日	おれんじカフェ（ITフォレスト）次年度役割分担

認知症支援リーダーの活動状況共有 意見交換 アンケート配布

【おれんじカフェ立ち上げ】

ITフォレスト地域交流室（小川東町）・上水本町地域センター（上水本町）の2カ所で新たにおれんじカフェ立ち上げに向けて、認知症支援リーダーと話し合いを行った。

スマイルカフェ上水（上水本町地域センター）は、令和4年6月より毎月第4水曜日開催、ほっとカフェ小川東（ITフォレスト地域交流室）は、令和4年9月より毎月第4水曜日活動中。それぞれのカフェのメンバー間の意見交換の場であるミーティングに、必要に応じて参加し、皆が和気あいあいと楽しくカフェ運営ができるよう支援を行っている。

【おれんじカフェ】

令和4年度は全11回。毎月第1火曜日、ほのぼの館でおれんじカフェを開催。

（8月は開催できなかった）

コロナ禍ということもあり、参加人数は5～10名程度で実施。

【認知症本人家族交流会】

令和4年11月1日、ほのぼの館で認知症本人家族交流会を開催。

本人2名 家族7名参加

【認知症サポーター養成講座】

R4.4.12 ワーカーズコープの会員に向けて開催。（包括職員）

R4.5.17 地域住民に対し講座開催。（包括職員）

R4.9.14 聴覚障がい者団体向けの講座開催。（包括職員）

【認知症部会の参加】

小平市 5 包括の認知症地域支援推進員・看護師、保健師と小平市地域支援担当の保健師と情報共有を行っている。

【若年性認知症】

東京都多摩若年性認知症総合支援センターと連携し、若年性認知症の方に対する情報共有・支援体制の確認を行った。現在も連携しながら支援を継続中。

【地域の認知症高齢者相談対応】

本人や家族、医療機関・民生委員・金融機関・警察・地域住民等からの相談や通報を受け、継続的な見守りや介護保険サービスの導入・インフォーマルサービスの提供・提案等、実施した。

【地域ケア会議】

- ・個別地域ケア会議は 11 ケース。個別の案件において対応を重ねてきた。
- ・テーマ設定型においては、少子高齢化や核家族の進展、家庭の経済状況の変化といった背景などの要因から起こっている「ヤングケアラー・若者ケアラー」という地域課題について、具体的に何ができるのか、大学、病院、中学のソーシャルワーカー、民生委員、社協、特養、ケアマネ、市（子育て支援、高齢、障害等）の関係機関で集まり、今後の包括的な支援体制の整備をしていくために、話し合いを行った。

ヤングケアラー・若者ケアラーの相談や心配事を受けた場合にどこで相談し、どのようにしていけば良いかを明確化する必要がある。

当事者やその家族は当然であるが、支援者が一人で悩み、孤立しない仕組み作りが必要と考える。次年度も支援体制の見える化、ネットワークの構築を図り、支援体制のフローチャート的なものを作成し社会資源の創設を図れるようにしていきたい。

- ・基幹形地域ケア会議は、「地域の繋がりの中で、自分たちでできる事を考えてみませんか～だれもが担い手・お互いに支えあう地域を目指して～」の議題で行い、準備会も含めて、地域型包括として、参画した。

【研修・その他】

オンライン研修が整い始めたこともあり、医療と介護との多職種連携事業（研修）も含め、外部諸団体の会議（全国社会福祉協議会の各種委員会や東京都高齢者福祉部会の各種委員会）にも参加し、有益な情報収集を行う事ができた。

その他、次年度においては、集合形式の研修や適宜、オンライン研修も取り入れながら、個々の研修ニーズや課題を把握し、センター職員各々のスキルアップを更に進めていきたい。

今後も、小川ホームが地域の中核機関として近隣住民から信頼され、必要不可欠な存在として機能し続けていきたい。

【認知症サポーター養成講座】

日程	テーマ	団体	開催場所
4月12日	認知症サポーター養成講座	ワーカーズコープ	中央公民館
5月17日	認知症サポーター養成講座	市民対象	津田公民館
6月3日	認知症サポーター養成講座	セブンイレブン	オンライン
6月17日	認知症サポーター養成講座	セブンイレブン	オンライン
9月14日	認知症サポーター養成講座	手話グループ(しゅわしゅわクラブ)	津田公民館

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	439	433	430	434	435	437	444
内委託	105	102	109	103	97	99	106
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R3年度
件数	446	446	444	436	436	5,260	5,243
内委託	102	103	108	104	101	1,239	1,179

2. 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計			
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
事業	/	/	/	/	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援1	0	0	1	0	1	2	4	3	4	15	7	34	8	34	10	15	35	103	138	
支援2	2	3	2	1	6	8	4	10	16	24	15	40	16	83	16	52	77	221	298	
合計	2	3	3	1	7	10	8	13	20	39	22	74	24	117	26	67	112	324	436	

令和5年3月31日現在

相談実績

相談件数(件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
内 当 月	当月相談者数	481	404	444	412	460	366	405	461	435	417	416	543	5244	
	新規相談者	40	37	32	40	33	27	53	41	41	32	36	32	444	
相 談 内 訳	継続相談者	441	367	412	372	427	359	352	420	394	385	380	511	4820	
	自 立 支 援 サ ー ビ ス	給食サービス	2	3	5	0	3	2	3	0	3	4	2	1	28
		住宅改修	5	4	4	9	6	4	8	12	5	8	7	3	75
		福祉用具	3	1	3	3	2	3	4	5	4	3	4	5	40
		緊急通報・火災安全システム	1	1	0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	7
		おむつ支給等事業	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
		高齢者見守り事業	16	8	17	15	11	6	5	6	8	7	14	9	122
		その他自立支援サービス等	4	3	2	2	1	1	3	0	1	1	0	0	18
	介 護 保 険	施設サービス	32	25	39	28	32	32	17	31	27	36	31	30	360
		在宅サービス	218	156	178	178	210	213	208	221	233	208	175	189	2387
地域密着サービス		4	4	1	1	7	9	5	8	2	4	7	2	54	
ケアマネ・ケアプランの相談		84	54	57	62	73	70	73	73	58	66	72	60	802	
申請等の相談		79	90	84	59	81	52	89	66	74	75	71	79	899	
介 護 予 防 ・ 生 活 支 援	訪問型サービス	7	3	1	2	1	1	3	1	1	3	4	13	40	
	通所型サービス	16	1	1	7	2	1	2	7	1	2	5	11	56	

予 防 事 業	ADL・IADLに 関する相談	3	4	5	1	3	2	7	5	7	3	1	7	48
	社会参加に 関する相談	7	6	8	3	4	6	7	7	10	9	4	7	78
相 談	認知症に 関する相談	69	54	53	48	54	41	40	60	45	61	44	51	620
	受診・治療・服 薬に関する相談	38	30	33	21	21	12	16	22	29	30	25	43	320
	徘徊に関する相談	5	0	4	2	6	1	1	1	3	0	0	2	25
	上記以外の相談	14	10	2	4	6	1	3	4	2	10	7	5	71
権 利 擁 護	地域福祉権利擁護	6	13	8	6	5	5	2	6	6	1	1	2	61
	成年後見	19	14	19	17	13	11	5	12	12	6	6	12	146
	高齢者虐待	10	9	7	11	8	2	2	8	0	9	9	12	87
	消費者相談	2	2	8	1	0	1	0	6	3	2	1	5	31
そ の 他	苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	安否確認・緊急 対応	14	9	12	9	9	4	8	10	3	4	8	7	97
	住環境に関する 相談	8	2	4	4	3	4	5	3	4	0	9	11	57
	生活困窮者に関 する相談	7	1	1	3	0	0	1	2	2	1	3	0	21
	緊急医療情報キッ トに関する相談	2	0	3	2	0	0	2	1	0	0	1	1	12
	医療関係	62	66	91	69	83	72	67	80	104	70	76	107	947
	他制度の相談	13	17	17	18	13	23	13	21	18	10	12	21	196
	介護者自身(介護 疲れ、介護離職) に関する相談	13	9	6	9	13	7	4	8	7	6	10	6	98
	上記以外の相談	2	8	9	3	6	2	3	1	2	2	2	8	48

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
予 防 給 付	要 支 援 1	予防ケアプラン作 成	60	56	53	54	50	48	50	56	54	51	55	45	632
		予防ケアプラン作 成委託	21	19	19	20	22	21	20	20	23	21	18	18	242
		ケアプラン作成委 託事業者数(3月 31日現在の数)	20	18	18	18	19	18	17	18	19	19	18	17	219
	要 支 援 2	予防ケアプラン作 成	136	142	141	151	158	154	158	156	154	166	156	159	1831
		予防ケアプラン作 成委託	40	50	39	36	33	34	30	36	37	39	41	42	457
		ケアプラン作成委 託事業者数(3月 現在)	34	33	29	32	29	30	29	33	31	33	34	33	370
		セルフケアプラン 作成件数	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
介 護 予 防 日 常 生 活 支 援 事 業	事 業 対 象 者	ケアプランA	0	2	2	2	5	2	1	1	0	0	0	0	15
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラ ン作成・委託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業作成委託 事業者(3月現在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

要支援1	ケアプランA	76	74	71	67	70	70	73	68	66	64	62	62	823
	ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合事業ケアプラン作成・委託	17	14	16	12	14	11	14	15	11	18	11	10	163
	総合事業作成委託事業者(3月現在)	16	14	16	12	13	11	14	14	10	11	10	9	151
要支援2	ケアプランA	65	62	66	63	63	66	63	65	69	68	65	66	781
	ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合事業ケアプラン作成・委託	25	26	27	31	31	30	28	30	31	30	32	29	350
	総合事業作成委託事業者(3月現在)	23	24	27	27	26	26	25	27	28	29	31	27	320
ケアマネ業務	事業対象者	3	1	2	2	5	0	3	2	0	0	0	1	22
	要支援1	183	189	209	194	198	186	209	187	201	199	164	210	2329
	要支援2	331	345	356	363	370	354	311	337	400	351	368	354	4240
	申請中・退院調整等	17	15	20	20	25	15	17	16	8	20	27	17	217
	サービス担当者会議・ケース会議	25	18	4	23	29	21	17	13	10	30	3	34	227
介護保険申請件数		68	56	81	51	57	51	54	62	50	60	46	44	680
事業対象者 基本チェックリスト実施		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
実態把握に関する対応		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	47	61
ア 包 括 的 ・ 継 続 的 事 業	ケアプラン作成指導・個別指導・相談	9	16	19	18	18	12	17	19	9	8	5	7	157
	困難事例への指導助言	11	13	13	12	27	14	17	11	5	12	11	15	161
	サービス担当者会議・ケース会議	0	2	4	4	3	0	5	4	0	0	2	0	24
地 域 ケ ア 会 議	地域ケア会議 <個別ケース検討>	0	0	0	0	1	0	0	3	1	1	0	1	7
	地域ケア推進会議[圏域内テーマ設定会議]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	地域ケア推進会議[第2層生活支援体制整備事業協議会]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

令和5年6月15日

東京都小平市小川西町2-35-2

社会福祉法人緑友会

理事長 増田英男